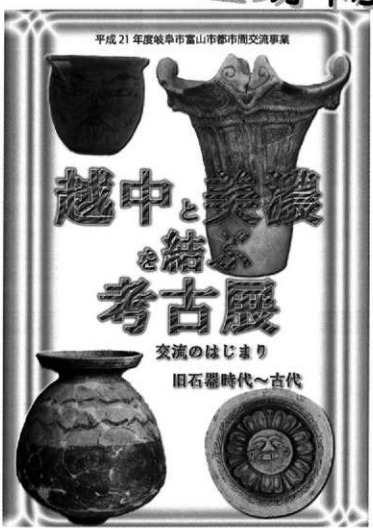
富山市の遺跡物語



越中と美濃を結ぶ考古展

交流のはじまり　旧石器時代～古代　を開催しました

佐藤記念美術館において平成21年7月18日（土）から9月6日（日）まで岐阜市富山市都市間交流事業「越中と美濃を結ぶ考古展」を開催いたしました。

今年度は「交流のはじまり　旧石器時代～古代」と題し、両市の主要な発掘調査出土品約950点を展示いたしました。会期51日間、県内外から4,714人の入場者がありました。特に縄文時代における下呂石やヒスイなど、人や物の交流のようすが明らかになり、両市の発掘調査出土品を通して、越中・美濃の結びつきや両地域の交流の歴史を紹介することにより、両市の長い交流の歴史について理解を深めることができました。

平成22年度は中世・近世をテーマとして開催を予定しています。両市の歴史全体にわたる交流のすがたを明らかにします。

越中と美濃を結ぶ考古展　開催

展示　　**2009.7月18日(土)～9月6日(日)**

本展は平成21年度・平成22年度の2カ年計画で、今年度は富山市教育委員会、22年は岐阜市教育委員会が事業主体となり開催するものです。会期中には展示解説会を3回、記念講演会を2回開催し、県内の歴史愛好家が多数聴講しました。

同展は10月30日から12月13日まで岐阜市歴史博物館でも開催されました。

第1回特別講演　　**2009.7月26日(日) 10:30～**

岡村道雄氏(奈良文化財研究所名誉研究員)を講師に迎え、「越中・美濃　縄文のクニのすがた」と題して発表されました。

氏は自身の研究テーマである縄文時代の漆についての研究を紹介されたあと、小竹貝塚や北代遺跡、開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡など富山市の縄文時代遺跡や、富山と岐阜の特徴的な出土遺物を例に、縄文時代の本質を解明するためには、地域的な文化という視点で祭祀遺物などの精神文化や漆工などの技術から解明していくことが必要と述べられました。

第2回特別講演　　**2009.8月23日(日) 14:00～**

高木洋氏（岐阜市歴史博物館館長）を講師に迎え、「古代社会の中央と地方－重文・美濃国刻印須恵器を中心に」と題して発表されました。

氏はご自身が携わった「老洞古窯」の発掘調査と、そこから出土した重要文化財「美濃国刻印須恵器」の最新研究成果から、これまで官窯と考えられていた「老洞古窯」は、地域の権力者である地方豪族層が経営に関与し、古代における中央集権的な体制は地方の伝統的な支配構造の上に成り立っていたと述べられました。

北代縄文広場この1年　－2009年度－

北代縄文館ミニ企画展「縄文人と色」の開催　9月1日～3月28日

縄文時代のマツリの場などでは、特殊な道具や装身具が多く使われました。これらは彩色されたり、美しい色の石が使われたりしており、「色」が意識されたことは明らかです。ヒスイ玉や赤色顔料（朱・ベンガラ・赤漆）が塗布された土器・土製品などの市内遺跡出土品、写真パネルを通して、縄文人の生活と色のかかわりを探りました。

展示風景

ボランティアによる解説のほか、埋蔵文化財センター学芸員による展示解説会も二度開催し、多くの方が興味深く資料を観察し、遥かなる縄文人に思いを巡らせていました。2010年2月末日時点で2,858人の方にご覧いただきました。

北代遺跡出土土器の顔料としてベンガラが使われたことはわかっていましたが、坂口諒子学芸員による蛍光X線分析調査で、朱が付着した磨石や朱が塗布された土器が新たに確認され、北代遺跡では朱の精製と土器への塗布が行われたことが判明しました。この成果は新聞でも紹介され、市民の注目を集めることとなりました。調査成果の詳細は『富山市考古資料館紀要』第29号（2010年3月刊行）に掲載されています。

「社会に学ぶ　14歳の挑戦」の記録～復原建物2の土屋根補修～　7月7日

埋蔵文化財センターでは、7月6日～10日まで「社会に学ぶ　14歳の挑戦」として芝園中学校2年生4名、奥田中学校2年生1名を受け入れ、さまざまな業務を体験してもらいました。

その一つとして、北代縄文広場の復原建物2の土屋根の補修を行いました。皆で力を合わせて、崩れた屋根土を元通りに直しました。野外での肉体労働でしたが、この体験を通じて達成感とご両親への感謝の念を抱いたようです。

力を合わせて補修した土屋根

台風18号被害箇所（復原建物2・5・6）の修復・応急処置の実施　10月～12月

10月8日未明に県内を通過した台風18号は、広場にも多大な被害をもたらしました。樹木が倒れるなどのほか、復原建物2の小屋根が全壊したり、復原建物5・6の土屋根が陥没したりしました。これを受け、小屋根を修復し、土屋根には屋根土の下に板材を入れて補強しました。

縄文冬まつり　今年も盛大に開催！　1月23日

地元の長岡地区ふるさとづくり推進協議会主催の恒例行事「縄文冬まつり」が、晴天に恵まれるなか、盛大に開催されました。左儀長・もちつき・ビンゴゲーム・的あてゲームを通して、三世代にわたる地区住民の交流の場となりました。

ゲームを終えた後は皆で縄文鍋やお餅をいただき、悠久の歴史に思いを馳せながら、身も心も温まる一日となりました。

左儀長のようす

来場者 10 万人突破！　7月 22 日

1999 年 4 月 29 日のオープンから 10 周年となる今年、7 月 22 日に来場 10 万人を突破しました。

10 万人記念のくす玉割り

解説ボランティア入魂の記念品

くす玉を割ってお祝いした後、北代縄文広場解説ボランティアの会会長が記念品として縄文土器（複製品）を贈呈しました。

長岡・鵡川アイヌ文化協会交流の集い－北代縄文広場オープン 10 周年記念フェスティバル－盛大に挙行される！　7月 25 日

市内外からの 200 人を超える来場者のなか、北海道から鵡川アイヌ文化協会を中心としたイベントが盛大に行われました。フェスティバルを通して、見て、触れて、感じたアイヌ文化と、北代の縄文文化のつながりを感じる良い機会となりました。

縄文畑で 10 周年記念植樹　長岡保育所園児・長岡小学校児童と鵡川アイヌ文化協会の皆さんが力を合わせて、復元した打製石斧でクリ・トチ・ネムの木を植樹しました。これらは縄文時代の北代に繁茂していた樹木で、記念の標柱も立てられました。

鵡川アイヌ文化協会による古式舞踊公演　国重要無形文化財の魔除けの踊り“フッサヘロ”などの古式舞踊を多く堪能したほか、アイヌ語で吟じられた火の女神の伝説に、来場者は感動しきりでした。最後には、来場者も鵡川アイヌ文化協会の皆さんの輪踊り“ホリッパ”に入り、一緒に輪踊りを楽しみました。

鵡川アイヌ文化協会の皆さんとの交流

アイヌ楽器（ムックリ）の製作体験　鵡川アイヌ文化協会の皆さんが奏でた素晴らしい音色を再現しようと、ムックリ（口琴）作りに体験参加者は夢中で取り組みました。会場内外に熱気が満ち溢れるなか、完成したムックリで音を出せた体験参加者もいて、歓喜の渦が巻いていました。

ムックリ製作体験のようす

記念講演会～北代の縄文ムラ物語～　奈良文化財研究所名誉研究員の岡村道雄先生による記念講演会が、専能寺（北代）で開催されました。最初にアイヌ古式舞踊を鑑賞した後、アイヌ文化と縄文文化の関連性を学ぼうと、200 名が熱心に聞き入りました。会場から出た多くの質問に対して、先生は熱心に説明くださり、実りある講演会となりました。

熱気に満ちた記念講演会場

オープン 10 周年記念特別展～小竹貝塚～　4 月 28 日～8 月 30 日まで、北代縄文館で小竹貝塚の発掘速報展が開催されました。“縄文時代のタイムカプセル”である貝塚からの出土品に、皆さん見入っておられました。期間中の観覧者は 5,411 人でした。

新たに墳墓11基、埋葬施設もみつかる　　百塚遺跡

1．調査のあらまし

百塚遺跡は、神通川の下流左岸の河岸段丘上（標高約15m）に立地しています。主要地方道富山八尾線道路改良工事に先立ち、平成21年度は2,100㎡を対象に発掘調査を実施しました。

平成17～20年度の調査では北側に隣接する百塚住吉遺跡や百塚住吉B遺跡などで弥生時代終末期の方形周溝墓や前方後方形墳丘墓、古墳時代初頭の円墳や北陸最古段階に位置づけられる前方後円墳、前方後方墳などが10基以上見つかっていました。

2．新たに11基の墳墓

平成21年度の発掘調査では、弥生時代後期～古墳時代初頭を中心に築かれた方形周溝墓や円形周溝墓などが11基みつかりました。その内訳は、四隅に陸橋を持つ方形周溝墓が4基（SZ08・10・12・14）、一辺に陸橋を持つ方形周溝墓が1基（SZ17）、円形周溝墓が5基（SZ09・11・15・16・18）、埋葬施設のみが1基（SZ07）です。

遺構検出状況（西から）

方形周溝墓は、東西や南北といった対になる溝間の距離（墳丘規模）が、6m（SZ08・10・12）と8m（SZ14）と10m以上（SZ13・17）の3つの規格に分かれます。

一方、円形周溝墓は直径が8mほどで溝幅（0.43～0.55m）が狭いタイプ（SZ09・11・16・18）と、直径が11mで溝幅（1.8m）が広いタイプ（SZ15）に分かれます。

今回の調査では、同じ墓域内に、方形周溝墓と円形周溝墓が複数基混在してみつかっており注目されます。この時期県内では、射水市囲山遺跡や南太閤山Ⅰ遺跡などで、方形周溝墓群が築かれます。一つの墓域内では同じ形態の墳墓を造り続けることが一般的です。一方、方形周溝墓と円形周溝墓が対になる例は、富山市杉谷A遺跡や清水堂南遺跡で確認されていますがいずれも単独で対になってみつかっています。今回のように、同じ墓域内に複数基が混在する例はほとんどありません。本遺跡の方形周溝墓・円形周溝墓群が同時期に営まれたのか、異なる時期に築かれたのか、今後出土遺物などの詳細な検討を行い、当地域の墓制のあり方を解明していきたいと考えています。

出土したガラス小玉

3．ガラス小玉96点出土

今年度調査区中央西寄りで検出された方形周溝墓（SZ10）には、埋葬施設と周溝が良好に残

っていました。埋葬施設は長さ 2.48m、幅 1.06m、深さ 0.5mを測ります。中央には割竹形の木棺を東西方向に長軸をとり据えられていました。木棺を粘土で固定し、さらに外側に木製の板で棺を覆っていた（木槨か）ことが推測されます。

木棺の西寄りからは直径 3～5 ㎜のガラス小玉が 96 点出土しました。ガラス小玉は、首飾りや髪飾りなどとして首長が身に着けていたことが推測されます。その一方で、木棺内の西寄りのやや広い範囲にまとまって出土したことから、身に着けずに置かれたり、まかれたりしたことも考えられます。このことから、被葬者が西に頭を向けて葬られていたと推定されます。

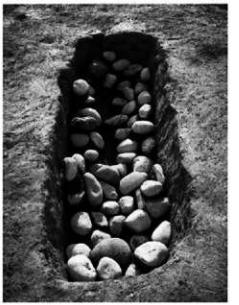
ガラス小玉が出土した方形周溝墓

一方、調査区内で最も標高の高い位置には、長さ 2.96m、幅 1.07m、深さ 0.78mを測る埋葬施設（SZ07）を 1 基検出しました。これに伴う周溝は確認できませんでした。試掘調査の際、鉄鏃 1 点と壺形土器 1 点（古墳時代初頭）がみつかりました。

発掘調査では、人頭大の川原石が 70 個出土しました。この時期、このように石を埋葬施設に用いる例は県内にはみられません。石は木棺を固定するために用いられたと推測されます。

ガラス小玉や鉄鏃は、当時の最先端技術で製作されました。それらを入手できた、呉羽丘陵北部を拠点とする有力な集団の首長層が、この地を選んで共同墓地を形成したと考えられます。

また、この集団は、調査区の眼下に望む神通川の河川交通を掌握していたことも推測されます。本遺跡が位置する婦負地域は、県内でも古墳が多数集中する地域の一つです。日本海から神通川を経由して伝えられる技術や情報がいち早くもたらされるこの地は、地域の首長にとって重要な場所だったのではないでしょうか。



SZ07 埋葬施設（上）と出土品（下）

4．「百塚」地名の由来か

遺跡からは中世～近世の土坑墓群も多数みつかりました。土坑墓からは、火葬された人骨や銅銭が出土し、越中瀬戸の壺に火葬骨が納められたものもあります。

この地は、長期間にわたって墓域として利用されていたようで、現在まで塚状の地形も残っていました。これまで、弥生時代から江戸時代までの墳墓が約 30 基ほどみつかっています。「百塚」の地名の由来を考える上で注目されます。（鹿島昌也）

居住域の様相

小竹貝塚

1. 調査のあらまし

小竹貝塚は、呉羽丘陵北端に広がる台地の北西側山裾から平野にかけての位置に立地し、縄文時代前期（約6,000～5,000年前）の縄文海進の際に広がった旧放生津潟べりに形成された貝塚で、日本海側で最大級の規模を誇ります。

平成20年度に新鍛治川改修工事に伴う調査を行いました。調査の結果、貝層は最大厚約1.5m堆積していることが分かりました。また、貝層南側に高台があり、その高台で集石遺構などの遺構を検出され、居住域が存在することが確認されました。新鍛治川左岸南側の貝層縁辺部に埋葬された人骨を2体発見しました。1体は頭蓋骨のみが検出され、もう1体は、抱石葬での埋葬が確認されました。

調査区位置図

平成21年度には、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所の発掘調査が行われました。縄文時代前期中葉～末葉の3時期の遺構面が確認され、竪穴住居・土坑・土器廃棄場（谷）・地点貝塚などが検出され、縄文土器（前期）、石鏃、石錘、玦状耳飾、獣骨などが出土しました。

2. 居住域の遺構

平成21年度は、平成20年度に引き続き新鍛治川改修工事に伴う工事立会調査を行いました。調査区は幅約1mの範囲にすぎませんでしたが、住居などを検出し、居住域の拡がりを確認しました。

＜北側＞

大型土坑・穴などから、縄文土器（前期）・石槍・石鏃などが出土しました。

大型土坑は直径約90～120cmで、深さ約100～120cmを測ります。部分的な調査のため、全体規模は不明ですが、掘立柱建物の柱穴の可能性があります。

北側右岸完掘状況

＜南側＞

竪穴住居3棟、土坑、地点貝塚などを検出し、縄文土器（前期）・石鏃・イルカ脊椎骨などが出土しました。

竪穴住居は、直径4mの円形、長軸2.7mの方形、不整形（貼床を持つ）の3棟が確認されました。また、重なっている住居もあり、建て替えが行われていたと考えられます。

竪穴住居（南側左岸）完掘状況

今年度調査の結果、小竹貝塚の居住域の様相が次第に明らかになってきました。

3. 土壌洗浄と分類

平成 21 年度緊急雇用創出事業交付金の交付を受けて、平成 20 年度に掘削した貝層土壌の洗浄および遺物の分類作業を行いました。

縄文土器、石器、骨角器、骨、木の実など多様な遺物を確認しました。玦状耳飾の未成品が発見され、石核や剥片も多く確認されていることから、小竹貝塚において石器製作を行っていたと考えられます。

4. 人骨鑑定分析の状況

国立科学博物館人類研究部　溝口優司部長の下で、頭骨（1 号人骨）・抱石葬（2 号人骨）の鑑定分析を進めていただいています。

復元された 1 号人骨

3 号人骨

机上発掘で人骨を取り外し、復元されました。1 号・2 号人骨ともに形態学的に見ると、女性と推測されています。

また、机上発掘の際に、抱石葬の石も取り外されました。抱石の大きさ・重さは、最大長 30cm、最大幅 24 ㎝、最厚部 12 ㎝、重さ 12kg を測り、石の種類は、石英閃緑岩（火成岩）です（国立科学博物館地学研究部　松原聰部長の鑑定による）。

1 号人骨・2 号人骨の出土した新鍛治川左岸の貝層土壌を洗浄したところ、新たな頭骨片（3 号人骨）が検出されました。この 3 号人骨も含め、今後はＤＮＡ分析・年代測定等の分析を進めていく予定です。

5. 夏休み体験教室の開催

「夏休みの小竹貝塚出土遺物整理体験教室」を、平成 21 年 8 月 21 日（金）、婦中埋蔵文化財資料館で行い、親子 15 名が参加しました。貝層土壌の洗浄や遺物の分類などの体験をしました。

子どもたちは、初めて遺物を見たり触ったりして、楽しそうに体験していました。

【参加者の感想】

「土器やほねを見つけたり、しじみや土器のよごれをとったりするのが楽しかったです。」

「縄文時代の人が、貝や動物の骨・歯を道具として利用していて、エコだなぁと思いました。」　（堀内大介）

洗浄体験する子どもたち

1．幾層にも重なる遺構

城址公園整備に伴い、本丸北西部の発掘調査（118 ㎡）を行いました。

富山城本丸は、城が築かれた戦国時代から現代までの層が幾層も重なっています。今回の調査では、明治時代から江戸時代の層まで確認しました。さらに下には戦国時代以前の層も存在すると推測されます。

2．明治時代の石組水路と廃棄穴

明治時代の主な遺構に、石組水路と廃棄穴があります。

石組水路

石組水路は東西に延び、幅約 0.7m、深さ約 0.4mあります。石の積み方は両壁で異なり、南側は川原石を３段ほど垂直に積むのに対し、北側は半分に割った石を割面を表にして積んでいます。明治期の県庁舎に伴う排水路施設の可能性があります。

廃棄穴は、幅 3m以上、深さ 0.8m以上で、焼土や炭を大量に含んでいました。このほか瓦、土壁のような塊、釘等、建物に伴う部材があり、その多くが焼けていました。明治 32（1899）年に旧本丸御殿（この頃は県庁として使用）が焼失した際、火災で生じた大量の廃棄物を捨てた穴と考えられます。

本丸御殿は天保 4（1833）年に建てられており、これらの出土品を調べることでどのような建築材が使われていたのかがわかってくると考えられます。

3．江戸時代の整地層と焼塩壺

調査区の中央部で、質の異なる土を 4～5 層ほど薄く盛り土して固めた整地層が見つかりました。寛文元（1661）年の富山藩成立後の改修期の可能性があります。整地層は本来広範囲に広がっていたと考えられますが、後の時代に大規模に周囲が削られたため、中央部に島状に残っているのみでした。

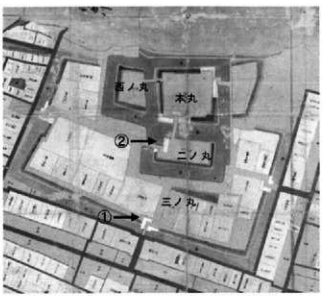
右の写真は、出土した焼塩壺と呼ばれる土器で、粗塩を入れて焼き精製した塩を得るものです。塩は土器に入れたまま流通・販売され、そのまま食膳にあがることもあったようです。県内ではこれまで富山城で１点見つかっているだけで、珍しい遺物といえます。　（野垣好史）

焼塩壺

まちなか地下１mの富山城　　富山城跡（二ノ丸、三ノ丸、城下町）

１．調査のあらまし

平成 21（2009）年 12 月 23 日に市内電車環状線（セントラム）が開通しました。丸の内から大手モールを通り西町までの約 940m 区間に軌道が新設され、中心市街地を路面電車が周回することになりました。これに伴い、軌道本体の工事や電気・ガス・上下水道管等の移設工事が行われました。工事の際には地下に遺跡がないかどうかを確認するため、工事立会を行いました。工事立会は平成 20 年 5 月から平成 21 年 9 月まで実施し、これまで知られていなかった富山城の姿が次々と明らかになりました。



大手門石垣と二階櫓門石垣の位置
（①、②にある白い部分が石垣）
万治年間富山旧市街図（富山県立図書館蔵）

２．大手門石垣と二階櫓門石垣

（1）大手門石垣（上絵図の①）　富山城三ノ丸の南辺には、城の正門にあたる大手門がありました。大手門石垣はこの門の東西に造られました。現在の場所は、大手モールと総曲輪通り交差点の北約 10m の位置です。

右の写真は、西石垣の南辺部、外堀に面した部分です。東西 3.2m、高さ 2m分が見つかりました。石材は花崗岩・安山岩等で、玉石（割らない石）が多く用いられています。石は布積で、寛文期（1661 年頃）の石垣と考えられます。

東石垣でも石材が確認されました。東と南に面をとった隅石が見つかったほか、この隅石から北に続く石の並びも確認しています。

大手門石垣

（2）二階櫓門石垣（上絵図の②）　二階櫓門石垣は、二ノ丸の西の入口にあった二階櫓門（一階を門、二階を櫓とした建物）の東西に造られました。現在の場所は、県道富山高岡線の大手町交差点付近です。

確認したのは東石垣の南辺部の石材です。道路面から約 70 ㎝下に 6 個の石が東西に並んでいました。これより下に石はなかったので、石垣の最下段にあたります。石の大きさは幅 0.6m、長さ 1m前後です。花崗岩が多く、大手門石垣とは異なり割石が多く使われていました。石を割るときにクサビを打ち込んだ「矢穴」と呼ばれる痕跡もありま

した。花崗岩の割石が多く使われていることから、石垣が造られた頃の慶長期（1605年頃）か、寛文期（1661年頃）に積まれた可能性があります。

他の場所も掘りましたが、そこで石垣は見つかっていません。明治以降の開発で取り去られたのでしょう。

（3）まとめ　大手門石垣と二階櫓門石垣は、これまで絵図でしかその存在が知られていませんでした。今回初めて確認されたことで、石垣の正確な位置が特定できました。また、石材や積み方がわかったことで、他の石垣との比較も可能になりました。大手門石垣については、その規模も推定されるなど、たいへん貴重な成果が得られました。（野垣好史）

露出した二階櫓門石垣の一部

3．外堀（そとぼり）の移り変わり

（1）慶長期の外堀か　A

慶長10（1605）年以降、前田利長によって城や城下町の整備が進められました。A地点から南北幅約20mを測る堀跡が検出され、慶長期の城・城下町の様子がわかる『越中国富山古城之図』（金沢市立玉川図書館蔵）にみえる外堀と推測されます。

寛文期以降は整地され、大手通りや重臣（家老）屋敷地として利用されました。

（2）寛文期以降の外堀　B

『富山侯家譜』（金沢市立玉川図書館蔵）には、万治 4(1661)年に前田利次の富山居城が決定した際、幕府から許可された項目に東西南の総構堀を広げることが含まれています。この際、寛文期以降明治期まで使用されたB地点の外堀が整備されたと考えられます。

大手モール付近の調査成果

（3）明治期の石組み水路　C

Cの位置から、Bの外堀が埋められた後に設置された石組み水路がみつかりました。外堀は明治 6（1873）年、政府により廃城令が出されて以降順次払い下げられ、土地の購入者が各々埋め立てを行い利用されました。

明治 18 年『富山市街見取全図』（富山市郷土博物館蔵）では、大手通りの西側は既に埋められ、明治 26 年『富山市街実測図』（同館蔵）には東西方向に水路が記されています。今回みつかった水路は、明治 20 年代前半頃に築かれた水路とみられます。

4．城下町と北陸街道

（1）背割下水（せわりげすい）　D

『万治年間富山旧市街図』（富山県立図書館蔵 1663～1666 年頃）をみると、外堀から南側には城下町が広がっています。「背割下水」と呼ばれる水路までが武家屋敷地、水路から南側が町屋敷地として表現されています。Dの位置に東西方向の石積み水路（幅 1～2m）を確認しました。

背割下水

（2）武家屋敷地と町屋敷地

武家屋敷地からは、木組みや石組み、素掘り井戸、土坑、柱穴などの遺構が多数検出されました。町屋敷地からも素掘りの井戸や柱穴などがみつかり、井戸からは江戸期の越中瀬戸などの陶磁器や木製品、動物の骨などが多数出土しました。当時の城下町の生活の様子を知る上で貴重な成果が得られました。

近世北陸街道（点線）と町屋の遺構

（3）近世北陸街道（北国街道）

越前町交差点の 33 地点の地下約 1.1mに、厚さ約 6cm の粘土質の整地層を確認しました。南北幅は約 9mです。また、総曲輪フェリオ南側でも同様の整地層を確認しました。

近世北陸街道は、慶長期以前は城の北側を通り、前田利長が慶長期に現在の総曲輪通り付近を通る城下町に引き入れたと考えられています。今回確認された整地層は、前田利次が城と城下町を再整備した寛文期（1661 年）以降に、旅籠町～一番町～西町を通った北陸街道の道路部分と推測されます。

（4）近代の町屋跡

一番町から西町の平和通りで、東西方向に半割した石列が一定間隔に確認されました。近世の遺構面よりも高い位置にみられます。

出土陶磁器や層位などから、明治期の北陸街道に沿った町屋と街道との境界に置かれた石列とみられます。電柱の基礎部分とみられる木柱も残っていました。写真の 6 個連続する石列は町屋の玄関口と推測され、一段低い位置に据えられています。近世～近代にかけての都市構造の変遷を知る上で貴重な成果が得られました。　（鹿島昌也）

近代の町屋遺構と石列

中世集落の縁辺部か

八ヶ山A遺跡

珠洲焼が出土した井戸

八ヶ山A遺跡は、射水平野の東端の標高約 5～6mの微高地上に立地しています。西に隣接する八町Ⅱ遺跡では、鎌倉～室町時代にかけての集落跡が確認され、富山市呉羽町・北代・八町一帯に、京都下鴨社の寺社領「塞江荘」との関連が推測されています。

平成 21 年度は、基幹農道整備事業に先立ち 285 ㎡の発掘調査を実施しました。

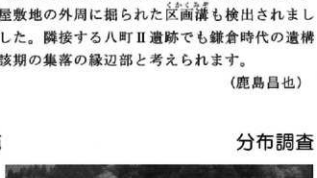
写真の井戸は、円形を呈する素掘りの井戸で、直径約 0.75m、深さ 1mを測ります。井戸底からは鎌倉時代の珠洲焼のすり鉢 2 点が出土しました。うち 1 点は破損した後、火に焼け、円形の自然礫を入れて口縁部を上に向けた状態で出土しました。井戸掘削の際、儀礼的に設置したと推測されます。

他に道路遺構と推測される 2 条の溝跡、屋敷地の外周に掘られた区画溝も検出されました。屋敷地内に建物跡は確認できませんでした。隣接する八町Ⅱ遺跡でも鎌倉時代の遺構が確認されていることから、本調査区は当該期の集落の縁辺部と考えられます。

（鹿島昌也）

山田・細入地域で分布調査を実施

分布調査



分布調査の様子

富山市域のうちで分布調査が実施されていない地域について、平成 18 年度から 6 か年の予定で調査を進めています。

21 年度は、山田・細入地域を対象として実施しました。調査は 21 年 10 月上旬から 10 月下旬まで細入地域、10 月下旬から 12 月上旬まで山田地域で行いました。地形や田・畑の現況を確認しながら遺物を採集し、五輪塔や石仏など石造物の確認も行いました。

両地域で採集した主な遺物には、縄文土器、打製石斧、磨製石斧、石鏃、石錘、凹石（縄文時代）、土師器（古墳時代）、須恵器、土師器（奈良、平安時代）、珠洲、八尾（鎌倉～室町時代）、越中瀬戸、瀬戸美濃（江戸時代）などがあります。

調査により山田地域は、新たな遺跡を 4 箇所確認し、周知の埋蔵文化財包蔵地 2 箇所の範囲が拡張となりました。山田地域の遺跡数は 16 箇所となりました。細入地域では、新たな遺跡を 6 箇所確認し、周知の埋蔵文化財包蔵地 4 箇所の範囲が拡張となりました。細入地域の遺跡数は 32 箇所となりました。

調査成果については遺跡地図に登載し、22 年 4 月に公開の予定です。　（小松　博幸）

平成21年度埋蔵文化財センター事業

1 埋蔵文化財調査

●発掘調査　開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果	遺跡の種類
米田大覚(201021)	米田町3丁目	物流管理センター建設	83	江戸井戸、江戸溝／江戸越中瀬戸	集落
八ケ山A(201110)	八ヶ山	県営基幹農道整備事業に伴う	285	中世井戸、中世溝、中世土坑／縄文土器、古代土師器、古代須恵器、珠洲、中世土師器、中国陶磁器、江戸越中瀬戸	集落
百塚(201189)	百塚	主要地方道富山八尾線道路改良工事	2,100	縄文(後)土坑、中近世土坑墓、弥生(後～終)周溝墓、古墳(前～後)墳墓主体部、中近世土坑、中近世近代溝、不明土坑／縄文(後)縄文土器、縄文打製石斧、弥生(終)弥生土器、弥生ガラス小玉、弥生砥石、古墳土師器、古墳須恵器、中～近世古銭、近世越中瀬戸、近世伊万里、近世陶器、不明めのう剥片、不明石皿、不明土製品、不明骨、不明鉄鏃、不明鉄釘	集落・墓・古墳
黒瀬大里(201479)	黒瀬字大里割	自己用住宅建築	50	古代～中世 河川跡、土坑、ピット／鳴鳥～平安須恵器、古墳(後)～平安土師器、珠洲、中世土師器、中世瀬戸美濃、中世越前、中世砥石、骨	集落
計4件			2,518.0		
20年度 補遺(3月)					
小竹貝塚(201105)	呉羽町字種田	自己用住宅建築(北陸新幹線)	173.44	縄文前期～中世谷地形、縄文竪穴建物、不明柱穴、不明土坑／縄文(前・中・後)縄文土器、縄文石器(磨製石斧、石皿、石錘、石錘、囲石、けつ状耳飾、石鏃、石匙、鋤玉、剥片)、弥生(後～終末)弥生土器、弥生勾玉未製品、弥生玉砥石、弥生土製紡錘車、平安須恵器、平安土師器、平安墨書土器、中世土師器、中世珠洲、中世八尾、中世瀬戸美濃、中世青磁、中世切羽、江戸越中瀬戸	貝塚・集落
富山城跡(201397)	本丸	城址公園整備（茶室の池整備）	118	江戸整地面、江戸土坑、江戸ピット、明治石組水路／中世かわらけ、中世瀬戸美濃、中世珠洲、中世玉輪塔、江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸唐津、江戸信楽、江戸伊万里、江戸瓶徳豊、江戸鉄洋、江戸釘、江戸瓦、明治瓦、明治陶磁器、明治釘、明治土壁	城館

●試掘確認調査　開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は立会調査

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
岩瀬天神(201001)	岩瀬天神町	自己用住宅建築	228.81	遺跡なし
大村(201003)	海岸通宇古城跡	自己用住宅建築	328.73	遺跡なし
呉羽野田(201006)＊	呉羽野田	呉羽野田(その1)配水管布設工事	119.7	遺跡なし
呉羽野田(201006)＊	呉羽野田	市道野田2号線道路改良工事	70	遺跡なし
今市(201010)	八町	農機具格納庫工事	228.05	弥生土器
今市(201010)	布目	自己用住宅建築（建替・増築）	90.1	平安須恵器、江戸伊万里、江戸陶器、江戸箸
今市(201010)	布目	自己用住宅建築	348.17	古代須恵器、古代土師器
今市(201010)	八幡新町	自己用住宅建築	221.83	遺跡なし
今市(201010)＊	布目	布目東排水路改良工事	125	遺跡なし
草島(201016)	草島字大村畑直	アパート建築	876	遺跡なし
蓮町(201020)	蓮町5丁目	自己用住宅建築	200	遺跡なし
蓮町(201020)	蓮町5丁目	埋設物調査	35260.31	不明溝／縄文土器、古代土師器
浜黒崎飯田(201032)＊	浜黒崎	市道浜黒崎10号線道路改良工事	40	遺跡なし
高来(201033)＊	横越	基盤整備保進事業(灌漑配水)横越大川排水路改修第2工区工事	379	不明土坑／なし
浜黒崎野田Ⅱ(201034)＊	浜黒崎	市道浜黒崎横越線道路改良工事	60	遺跡なし
高島(201041)＊	高島	高島(その1)配水管布設工事	69.36	遺跡なし
水橋荒町・辻ケ堂(201044)	水橋辻ヶ堂	自己用住宅建築	203.81	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
水橋石政(201053)＊	水橋石政	自己用住宅建築	59.29	遺跡なし
水橋狐塚(201058)	水橋桜木	アンテナ建設	199	遺跡なし
呉羽本郷(201062)＊	本郷中部	呉羽本郷17号線外道路改良工事	77	中世溝、近世溝、近世井戸、近世土坑、不明ピット／古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、中世白磁、中世陶製円板、近世越中瀬戸、近世唐津、近世伊万里、近世眺石、不明桃核
願海寺城跡(201066)＊	願海寺	流特717 呉羽第3処理分区東老田地区管渠築造(その4)工事	50	不明溝／なし
願海寺城跡(201066)	願海寺字舘木	資材置場造成工事	1009	不明溝／なし
願海寺城跡(201066)	願海寺水口	既存高校校舎解体と校舎建設工事	2000	遺跡なし
願海寺城跡(201066)	願海寺水口	倉庫建築	1428.08	不明溝／なし
西二俣(201067)＊	中老田	市道中老田針原線道路改良工事	644	遺跡なし
西二俣(201067)＊	西二俣	流特829・830 寒江処理分区西二俣地区管渠築造(その5)(その6)工事	875	不明土坑／不明土師器
東老田田(201071)＊	中老田	市道中老田9号線道路改良工事	100	遺跡なし
東老田田(201071)＊	東老田 外	特流834 呉羽第3処理分区東老田地区管渠築造(その8)工事	496	遺跡なし
東老田Ⅰ(201072)＊	東老田	流特716 呉羽第3処理分区東老田地区管渠築造(その3)工事	333	遺跡なし
東老田Ⅰ(201072)＊	東老田	流特717 呉羽第3処理分区東老田地区管渠築造(その4)工事	233	遺跡なし
東老田Ⅰ(201072)＊	東老田	特流816 呉羽第3処理分区花木地区管渠築造(その4)工事	423	遺跡なし
追分茶屋杉林野(201155)	追分茶屋字御花畠	自己用住宅建築	297.53	遺跡なし
呉羽コウヅバラ(201157)	呉羽町字水上、北代字中尾	自己用住宅建築	233.57	遺跡なし
北代シャクドジ(201159)＊	北代字布口	墓地造成工事	400	縄文土坑、古代竪穴建物、古代溝、古代住穴／縄文土器、古代須恵器、古代土師器
呉羽富田町(201160)	北代伊佐波	進入路及び工事施工ヤード築造	2996	古代須恵器、中世珠洲
百塚住吉(201187)＊	山岸	主要地方道富山八尾線道路改良工事(農道整備)	640	弥生(終)周溝／弥生(終)弥生土器
百塚(201189)	百塚	駐車場造成	122	弥生溝／弥生土器
百塚(201189)	百塚	主要地方道富山八尾線道路改良工事	1900	弥生(終)溝、弥生(終)土坑、江戸土坑／縄文土器、縄文石鏃、弥生土器、江戸瓦質塔、近世陶磁器
百塚(201189)	百塚	主要地方道富山八尾線道路改良工事	1550	縄文(晩)溝、古墳(前)溝／縄文(晩)縄文土器、石斧、古墳(前)土師器、近世瓦
百塚(201189)＊	百塚	流特801 呉羽第3処理分区花木地区管渠築造(その5)工事	389	中世瓦質土器、江戸伊万里、江戸陶磁器、不明土師器
八ケ山(201191)	百塚	更地整備工事	1713.91	遺跡なし
新屋殿田(201204)	新屋字中狭割	自己用住宅建築	282.74	遺跡なし
中富居(201206)	上富居二丁目	自己用住宅建築	281.94	遺跡なし
上飯野(201207)	上飯野字前田	宅地造成工事	1534.5	不明溝／弥生土器、古代須恵器、中世青磁、江戸越中瀬戸
奥田神社(201209)	奥田本町	社務所建設	2400	遺跡なし
宮町(201210)＊	宮園町	特環519 針原処理分区町袋地区管渠築造(その3)工事	428	遺跡なし
水橋金広・中馬場(201251)	水橋金広	自己用住宅建築	1324.15	弥生溝、弥生土坑、古墳土坑、中世溝／弥生(終)土器、古墳須恵器、中世珠洲
水橋金広・中馬場(201251)＊	水橋中馬場	水橋中馬場線道路改良工事	51	遺跡なし
花ノ木(201290)＊	花ノ木	流特720 呉羽第3処理分区花木地区管渠築造(その3)工事	179	遺跡なし
花ノ木C(201291)＊	東老田	流特 呉羽第3処理分区花ノ木地区管渠築造工事	40	古代溝、古代土坑／古代須恵器、古代土師器
西金屋・西金屋窯跡(201293)＊	西金屋	西金屋(その1)配水管布設等工事	142.35	遺跡なし
吉作(201323)＊	住吉 外	上水道配水管布設工事	48.6	遺跡なし
住吉速星神社南(201330)＊	住吉	市道住吉11号線道路改良工事	33	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
白鳥城跡(201338)＊	寺町・吉作	呉羽町(その2)送水管布設替工事	251.4	遺跡なし
大峪城跡(201396)	玉福字城	自己用住宅建築	162.83	遺跡なし
富山城跡(201397)	丸の内2丁目	自己用住宅建築	81.67	江戸陶磁器
富山城跡(201397)＊	丸の内3丁目　外	市内電車環状線化における軌道及び道路整備工事	30000	近世大手門石垣、近世二段橋門石垣、近世堀、近世背割下水、近世道路、近世井戸、近世溝、近世土坑、近世ピット、不明遺構／古墳土師器、古代(須恵器、土師器)、中世(土師器、珠洲、五輪塔、茶臼)、近世(越中瀬戸、唐津、伊万里、瀬戸美濃、青磁、鉄幸、羽口、トリベ、鉄貨、木製品[椀、箸、下駄]、瓦)、近代(陶器、磁器、瓦、木製品、フォーク、糸切り はさみ、道路縁石)、不明(木製品[下駄、板状、椀、箸]、砥石、石製品)
富山城跡(201397)	総曲輪3丁目	店舗建築	258.61	江戸堀跡／近代陶磁器
富山城跡(201397)	総曲輪4丁目	埋設物調査	11.436	中世溝、中世土坑／弥生土器・中世土師器・中世珠洲・江戸伊万里・江戸越中美濃
中世富山城推定地(201398)	千石町5丁目	自己用住宅建築	174.22	江戸土坑／江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸磁津、江戸磁器
黒瀬大屋(201479)	黒瀬字大屋割	共同住宅建築	434.22	古代溝、古代ピット、古代谷／古代土師器、古代須恵器、古代土錘
黒瀬大屋(201479)	黒瀬字大屋割	共同住宅建築	582	中世土師器
黒瀬大屋(201479)	黒瀬字大屋割	コンビニエンスストア建築	2014	遺跡なし
黒瀬大屋(201479)	黒瀬字大屋割	アパート建築	1697.1	遺跡なし
黒崎種田(201480)	黒崎字塚田割	アパート建築	997.15	古代須恵器
今泉城跡(201482)	今泉	自己用住宅建築	497.34	遺跡なし
山室東田(201487)＊	山室字東田割	アパート建設	1498.53	古代土師器
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木割	自己用住宅建築	192.96	遺跡なし
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木割	宅地造成工事	1851	遺跡なし
本郷椎木(201488)	本郷町	自己用住宅建築	245	古代土師器、古代須恵器
大宮町(201493)	大宮町	自己用住宅建築	330	遺跡なし
友杉(201500)	友杉字北条田割	自己用住宅建築	1314.25	遺跡なし
友杉(201500)	友杉	農業用倉庫建築工事	151.1	古代土師器
二俣北(201515)＊	二俣	市道小杉二俣線道路改良工事	38	不明土坑／不明土師器、古代須恵器、不明種子
二俣(201516)＊	二俣	二俣(その1)配水管布設工事	68.45	縄文(晩)縄文土器
石田北(201517)	石田	ゴミ集積場設置	160	弥生溝、弥生土坑、弥生ピット／縄文土器、弥生土器
悪王寺(201526)	悪王寺	医院建築工事	1242	平安土坑、平安ピット／弥生土器、平安土師器、平安須恵器、中世土師器、不明鉄滓
悪王寺(201526)＊	悪王寺	薬局建築工事	250.25	古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、江戸伊万里
下熊野(201528)＊	下熊野	特撰511 熊野処理分区下熊野地区管渠築造(その1)工事	506	遺跡なし
布市北(201532)＊	布市	水道管布設工事	48.5	遺跡なし
布市北(201532)	布市	自己用住宅建築	338	遺跡なし
関(201535)	関	駐車場造成	248	遺跡なし
開発覚田(201543)＊	開発	開発1号線道路改良工事	42	遺跡なし
惣在寺廃寺(201557)＊	下藤山	市道惣在寺2号線道路改良工事	43	遺跡なし
大井(201574)＊	大井	月岡青柳上今町線道路改良	464	遺跡なし
田伏・佐野竹(201584)	水橋田伏	自己用住宅建築	495.06	遺跡なし
金屋古屋敷(201586)＊	金屋	市道金屋21号線道路改良工事	90	遺跡なし
呉羽山古道(201613)	西金屋字高山	共同生活介護事務所建築工事	863	弥生土坑、弥生穴、古代溝／弥生土器、平安須恵器、平安土師器
百塚C(201614)	百塚	主要地方道富山八尾線道路改良工事	900	古墳(前)瓜坑／弥生土器、古墳(前)ガラス玉、古墳土師器、古墳鉄鏃、江戸いぶし瓦、江戸瓦質土器
羽根下立(201615)＊	羽根字下立割	携帯電話アンテナ建設工事	9	中世区画溝／中世土師器、古代須恵器、近世磁器
伏木(301033)＊	伏木	伏木(その1)配水管布設工事	492.3	遺跡なし
小糸・小萩野(301034)＊	小糸	上水道配水管布設工事	219.5	縄文土器

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
小糸・小萩野(301034)※	小糸	小糸加圧ポンプ所・配水施電気設備工事	69.5	遺跡なし
小糸・小萩野(301034)※	小糸	小糸(その1)配水管布設工事	304.2	遺跡なし
合田(301049)※	合田	合田(その1)配水管布設替工事	299.29	遺跡なし
春日長走(301068)	春日	自己用住宅建築	983.75	遺跡なし
万開(301080)※	万開字神道坂割	後谷川改修工事	184	遺跡なし
文珠寺神田(302022)※	文珠寺	配水管布設取替工事	232.6	遺跡なし
亀谷銀山跡(302058)※	亀谷字下平割	携帯電話基地局建設	9	遺跡なし
里見Ⅰ・南部Ⅰ(361065・362129)	八尾町田中	自己用住宅建築	491.13	遺跡なし
舘本郷Ⅱ(361068)	八尾町高善寺	経営体育成基盤整備事業	8400	中世土坑、古代・中世包含層、不明土坑、不明ピット、不明溝／古代土師器、古代須恵器、中世珠洲
井田(361073)	八尾町井田	自己用住宅建築	410	平安須恵器、平安土師器
大溝Ⅱ(362012)	婦中町小長沢	主要地方道小杉婦中鵜道路改良工事	2843	不明土坑、不明溝／縄文石鏃
平岡(362013)	婦中町小長沢大畑	主要地方道小杉婦中鵜道路改良工事	9211	縄文(前)土坑、縄文(前)溝、古代土坑、古代ピット／縄文(前)縄文土器、縄文凹石、縄文石錘、縄文磨製石斧、縄文石鏃、縄文垂飾、不明剥片、古代須恵器、古代土師器
二本榎(362016)	婦中町小長沢横開	主要地方道小杉婦中鵜道路改良工事	4310	古墳溝、古墳土坑／古墳須恵器
二本榎Ⅱ(362018)	婦中町新町	主要地方道小杉婦中鵜道路改良工事	4929	遺跡なし
新町Ⅰ(362019)	婦中町新町	主要地方道小杉婦中鵜道路改良工事	800	遺跡なし
下邑東(362042)	婦中町羽根	自己用住宅建築	229.18	遺跡なし
吉住(362071)※	婦中町外輪野	上下水道送水管布設工事	207.2	遺跡なし
中保屋(362072)※	婦中町外輪野	婦中町外輪野(その2)送水管布設工事	109	遺跡なし
野下・新開(362099)	平岡	主要地方道小杉婦中鵜道路改良工事	3524	古代溝／古代土師器、古代鉄滓
道場Ⅰ(362119)※	婦中町下井沢外	流特701 坂倉第2処理分区下井沢地区下水管布設(その5)工事	522	遺跡なし
上吉川Ⅰ(362137)※	婦中町上吉川	流特772 下条第1処理分区上吉川地区管施築道(その1)工事	537	遺跡なし
上吉川Ⅰ(362137)※	婦中町上吉川	流特796 下条第1処理分区上吉川地区管施築道(その3)工事	446	遺跡なし
上吉川Ⅰ(362137)※	婦中町上吉川	流特795 下条第1処理分区上吉川地区管施築道(その2)工事	320	遺跡なし
千里D(362142)	婦中町千里	資材置場造成工事	1834.38	遺跡なし
千里E(362143)※	婦中町千里	上下水道配水管布設工事	63.1	遺跡なし
寺家・浜子(362155)	婦中町浜子	土砂採取	22124	古代土師器、古代須恵器、中世珠洲
道島前田B(362164)※	婦中町道島字前田	携帯電話基地局建設	4	遺跡なし
片掛西(364017)※	片掛字井ノ平	市道庵谷片掛線外消雪グルービング工事・市道庵谷片掛線外機械設備工事	144	遺跡なし
猪谷(364019)※	猪谷字坪根	市道猪谷鷲寺線グルービング工事	633	遺跡なし
計121件(※57)			177,194.74	
20年度 確認(8月)				
今市(201010)	布目	自己用住宅建築	458	近代陶磁器、江戸越中瀬戸
富町(201210)	富町町	自己用住宅建築	368	弥生(後～終末)弥生土器、中世土師器、中世青磁
杉谷古墳群(201362)※	杉谷	歩道取設	60	遺跡なし
本郷権本(201488)	本郷町字権木割	自己用住宅建築	162	遺跡なし
本郷権本(201488)	本郷町字権木割	宅地進入路整設	36	遺跡なし
布市(201537)※	月岡町六丁目	市道上栄線道路工事	60	遺跡なし
笹木新(301011)	西堀野	大沢野西部企業団地造成	3,000	縄文土坑、不明掘立柱建物／縄文土器
西塩野(301066)	西塩野	大沢野西部企業団地造成	15,430	縄文土器
東川倉(361026)※	八尾町水口	上水道配水管布設工事	54	遺跡なし
安田地蔵(362001)	婦中町安田	自己用住宅建築	303	遺跡なし
道ノ山古墳群(362028)	婦中町下島字郎山	埋設物調査、整地作業	965	遺跡なし
千里E(362143)	婦中町千里	自己用住宅建築	464	遺跡なし

2　北代縄文広場管理

北代縄文広場の管理運営は長岡地区自治振興会に委託しています。平成21年度は、オープン10周年記念関連行事など多くの行事が行われ（2～3頁参照）、2月末までの来場者は8,770人です。

3　史跡安田城跡管理

史跡安田城跡は、富山市婦中町安田地内に所在します。昭和56年2月に国史跡に指定されました。「安田城歴史の広場」「土塁展示館」「安田城跡資料館」等の施設があり、県内外から多くの方々が訪れています。

歴史の広場では、本丸・二の丸・右郭・水堀が復元されています。本丸にある土塁展示館では、剥ぎ取り保存した土塁断面を展示しており、土塁構築の様子がわかります。資料館では、出土品や城の歴史的背景を紹介した映像を見ることができ、2階には遺跡を一望できる遺跡見学室があります。

史跡安田城跡 来場10万人記念 くす玉割り

平成5年5月13日のオープン以来、16年を経て、平成21年6月12日に来場者が10万人を突破しました。来場者数は平成20年度が9,216人、平成21年4月から平成22年2月末までは9,023人です。

平成21年度は常設展のほか、ミニ企画展を3回行いました（P19参照）。また、水堀脇に文化財案内看板を設置しました。

地元（朝日地区）住民による「第17回　安田城月見の宴」が8月22日に催されたほか、朝日公民館主催の「婦中町ふれあいウォーキング」など、平成21年度は26団体の学習の場としても活用されました。

新設された文化財案内看板

4　婦中埋蔵文化財資料館管理

婦中埋蔵文化財資料館では、弥生～古墳時代の遺跡からの出土品及び市民の方から寄贈された民具、農具等を展示しています。

平成21年度は、常設展「史跡王塚・千坊山遺跡群展」のほか、ミニ企画展を2回開催しました。

また、「夏休みの小竹貝塚出土遺物整理体験教室」（平成21年8月21日）を開催しました（P8参照）。小学生と保護者約20人が、整理体験を通じて縄文時代やふるさとの歴史に思いを馳せました。入館者数は平成20年度が538人、平成21年4月から平成22年2月末までは720人です。なお、平成16年7月3日の開館以来、ご利用いただいてきた当館ですが、平成22年3月31日で常時公開を終了しました。平日の展示見学や学校教育利用等には随時対応いたしますので、ご希望の方は埋蔵文化財センターまでご連絡ください。

夏休みの小竹貝塚出土遺物整理体験教室

5　展示・普及

(1)発掘速報展

「発掘速報展 2008　員塚・集落・城下町を掘る」巡回展

富山市市役所多目的ホール　　平成 21 年 3 月 23 日～3 月 27 日
富山市婦中埋蔵文化財資料館　　平成 21 年 5 月 19 日～6 月 21 日
富山市八尾教育行政センター 1 階　　平成 21 年 6 月 23 日～7 月 26 日
富山市大沢野総合行政センター　　平成 21 年 7 月 28 日～8 月 31 日

「発掘速報展 2009　"まちなか" 地下 1mの富山城・城下町」

富山市郷土博物館　平成 21 年 10 月 10 日～11 月 8 日

富山城石垣ツアー

(2)遺跡現地説明会

百塚遺跡　平成 21 年 11 月 21 日　参加者 250 名
富山城跡　平成 22 年 3 月 27 日

(3)富山城石垣ツアー　平成 21 年 6 月～平成 22 年 3 月 6 回開催　参加者 603 名

(4)展示

①北代縄文広場

ⅰミニ企画展「八尾地域の縄文遺跡(2)～妙川寺遺跡～」　平成 20 年 10 月 21 日～平成 21 年 1 月 18 日
ⅲミニ企画展「大山地域の縄文遺跡(2)～東黒牧上野遺跡（A 地区）～」　平成 21 年 2 月 3 日～4 月 26 日
ⅳ特別展「小竹貝塚」　平成 21 年 4 月 28 日～8 月 30 日
ⅴミニ企画展「縄文人と色」　平成 21 年 9 月 1 日～平成 22 年 3 月 28 日

②安田城跡資料館

ⅰミニ企画展「富山市の中世集落(3)　水橋金広・中馬場遺跡」　平成 20 年 11 月 5 日～平成 21 年 4 月 26 日
ⅱミニ企画展「富山市の中世城館(4)友坂遺跡」　平成 21 年 4 月 28 日～10 月 4 日
ⅲミニ企画展「富山市の中世集落(4)八町Ⅱ遺跡」平成 21 年 10 月 6 日～平成 22 年 4 月 18 日

③婦中埋蔵文化財資料館

ⅰミニ企画展「王塚・千坊山遺跡群とその時代(6)－富山市八町Ⅱ遺跡－」　平成 20 年 11 月 18 日～平成 21 年 5 月 17 日
ⅱミニ企画展「王塚・千坊山遺跡群とその時代(7)弥生時代の木製品－高岡市下老子笹川遺跡・上市町江上A遺跡の資料から－」　平成 21 年 6 月 23 日～12 月 23 日

④大山歴史民俗資料館

ⅰミニ企画展「むかしむかしの大山① 縄文時代人の暮らし」　平成 22 年 2 月 13 日～5 月 9 日

(5)資料貸出

①金沢学院大学美術文化学部文化財学科　木製品保存処理実習
会　　期　平成 20 年 7 月 31 日～平成 21 年 3 月 31 日
貸出資料　米田大覚遺跡　木製品 13 点、水橋金広・中馬場遺跡　木製品 12 点
②富山県埋蔵文化財センター　企画展「大発掘！とやま―開発と保存の時代―」

会　期　平成20年12月16日～平成21年3月31日
貸出資料　栃谷南遺跡　瓦2点、須恵器1点、土馬1点、鐘状銅製品1点、安田城跡　中世土師器4点

③島根県立古代出雲歴史博物館　企画展「輝く出雲ブランド―古代出雲の玉作り―」
会　期　平成21年3月7日～5月17日
貸出資料　神田遺跡（栗山コレクション）　硬玉製大珠1点、富山県下梨地区（栗山コレクション）　硬玉製大珠1点

④富山市郷土博物館　企画展「明治の富山城址～お城の跡の再開発～」
会　期　平成21年4月25日～平成21年7月5日
貸出資料　富山城跡　瓦3点、土壁1点、釘5点

⑤魚津市魚津歴史民俗博物館　企画展「戦国武将上杉家と魚津」
会　期　平成21年6月3日～11月15日
貸出資料　富山城跡　青磁3点、珠洲焼1点、天目茶碗1点、土錘2点、信楽焼2点、土師器皿5点、瀬戸美濃4点、珠洲焼擂鉢1点、白磁1点、砥石1点、炭化穀物2ケース、魚骨1ケース、小出城跡　碁石1点、くし2点、鉄砲玉4点、硯1点、永楽銭1点、腰刀1点、馬の骨1点、馬の歯1点、漆器椀・皿6点、下駄2点、長刀柄1点、糸巻き1点、機織おさ1点、曲物1点、人の歯1点、鍬先1点、炭化果実1点、箸状木製品2点

⑥富山市郷土博物館　常設展「リアルタイム富山城」
会　期　平成21年7月16日～平成22年3月31日
貸出資料　金箔張木製品1点、越前焼甕1点、瓦4点、かわらけ6点

⑦富山県埋蔵文化財センター　富山市ファミリーパーク　「悠久の森2009」
会　期　平成21年8月29日
貸出資料　北代遺跡　縄文土器7点、土製品2点、ヒスイ原石2点、石器5点

⑧富山県埋蔵文化財センター　特別展「前田の時代と城」
会　期　平成21月10月14日～12月3日
貸出資料　富山城跡　中世土師器5点、越前2点、瀬戸美濃4点、青磁1点、白磁1点、越中瀬戸1点、唐津2点、瀬戸1点、焼塩壺1点、瓦2点、青花2点、朝鮮陶磁器2点、白鳥城跡　中世土師器3点、青磁1点、染付1点、越前1点、碁石6点

⑨富山県埋蔵文化財センター　企画展「速報展　発掘されたとやま」
会　期　平成21年12月15日～平成22年3月25日
貸出資料　富山城跡　越中瀬戸8点、肥前5点、瀬戸美濃1点

(6)講演・研究発表

鹿島昌也　平成22年富山考古学会総会　「百塚遺跡の発掘調査」　平成22年1月30日　富山市民プラザ

小林高範　牧公民館主催 見て・学んで「中地山城跡」の魅力を再発見学習会　「牧地区周辺の歴史と文化財について～中地山城跡など～」　平成21年7月7日　富山市大山歴史民俗資料館研修室

小林高範　富山市大山歴史民俗資料館ミニ企画展講座　「大山地域の縄文遺跡について」　平成22年2月20日　富山市大山歴史民俗資料館研修室

野垣好史　平成22年富山考古学会総会　「富山城跡の調査－主に大手門石垣・二階櫓門石垣について－」　平成22年1月30日　富山市民プラザ

藤田富士夫　宮坂英弐記念　尖石縄文文化賞制定10周年記念縄文ゼミナール　縄文時代の諸問題　「日本海が結ぶ縄文文化と大陸文化」　平成22年2月21日　尖石縄文考古館ガイダンスルーム

古川知明　富山大学教養講座とやま学－近世富山の史料を読む－第4回　「発掘資料・絵図から読み取る富山城」　平成21年5月18日　富山大学

古川知明　富山考古学会設立60周年記念フォーラム　「越中の近世城郭－高岡城からみえてくるもの－」　平成21年10月17日　高岡射水神社
古川知明　高岡市立博物館平成21年度郷土学習講座第2講　「富山城から見た高岡城」　平成21年11月28日　高岡市立博物館
堀内大介　平成21年度県民考古学講座　「小竹貝塚の調査」　平成21年8月2日　富山県埋蔵文化財センター

(7)講座

①富山市民大学

食の考古学

1	堀内大介主査学芸員	縄文人の食文化(1)－小竹貝塚を中心として－	5月12日
2	堀内大介主査学芸員	縄文人の食文化(1)－小竹貝塚出土品解説会－	5月26日
3	安達志津研究員(富山市日本海文化研究所)	縄文人の食料加工と保存	6月9日
4	大野英子主査学芸員	弥生の食－コシの国の稲作文化－	6月23日
5	野垣好史学芸員	古墳時代の食器	7月14日
6	安達志津研究員(富山市日本海文化研究所)	縄文クッキーづくり	9月8日
7	堀沢祐一主査学芸員	木簡などから見た古代の食事	9月29日
8	鹿島昌也主査学芸員	古代から中世の食器	10月13日
9	細辻嘉門主任学芸員	中世の食卓	10月27日
10	古川知明所長	近世の食事－富山城から出土した食べ物－	11月10日

郷土の歴史

古川知明所長	富山・高岡の城と城下町	6月25日

八尾探訪

細辻嘉門主任学芸員	井田川流域の弥生時代	11月13日

婦中文化の散歩道

細辻嘉門主任学芸員	出土品にみる婦負の人々の感性	11月18日

②市役所出前講座

1. **堀内大介主査学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史（富山市小竹貝塚発掘調査）」　ふるさと学級くれは楽友会　呉羽会館　平成21年4月26日　50名
2. **堀内大介主査学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史」　共栄火災海上保険株式会社　富山県民共生センター「サンフォルテ」研究室　平成21年7月3日　35名
3. **細辻嘉門主任学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史（史跡王塚・千坊山遺跡群の管理について）」　古里地区老人クラブ　古里公民館　平成21年7月24日　60名
4. **細辻嘉門主任学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史（地区の遺跡探訪）」古里自治振興会　古里公民館　平成21年10月6日　25名
5. **小黒智久主査学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史（五福地区・金屋南遺跡を中心に）」　五福校下ふるさとづくり推進協議会　富山市五福公民館　平成21年10月27日　30名
6. **野垣好史学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史（富山城石垣調査から）」　古沢校下ふるさとづくり推進協議会　古沢地区センター　平成21年10月30日　20名
7. **鹿島昌也主査学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史（まちなか地下1mの富山城・城下町）」　総曲輪地区社会福祉協議会　総曲輪公民館　平成21年11月17日　30名
8. **近藤顕子主査学芸員**　「遺跡からみた富山の歴史（呉羽地域の遺跡　縄文時代～古墳時代）」

社団法人富山法人会　富山観光ホテル　平成21年11月27日　33名

9. 細辻嘉門主任学芸員「遺跡からみた富山の歴史(地区の遺跡探訪)」　いちなな会　王塚古墳・勅使塚古墳・五ツ塚古墳群　平成21年12月13日　15名

10. 堀内大介主査学芸員「遺跡からみた富山の歴史(縄文時代の祭祀)」　道島・上野村づくり協議会　富山市婦中町道島・上野公民館　平成22年2月21日　70名

11. 鹿島昌也主査学芸員「遺跡からみた富山の歴史」　ふるさと探訪同好会　富山市社会福祉センター　平成22年3月11日　50名

③その他

悠久の森実行委員会　悠久の森2009「縄文クッキーづくり」

細辻主任学芸員・安達志津(富山市日本海文化研究所研究員)　富山市ファミリーパーク遊園地　平成21年8月29日　230名

(8)その他

①社会に学ぶ14歳の挑戦

・芝園中学校（4名）　平成21年7月6日～7月10日
　出土品整理・北代縄文広場管理業務の体験

・奥田中学校（1名）　平成21年7月6日～7月10日
　出土品整理・北代縄文広場管理業務の体験

・新庄中学校（1名）　平成21年10月5日～10月9日
　出土品整理・北代縄文広場管理・遺跡発掘調査業務の体験

②古里小学校社会科見学「校外学習」　小黒智久主査学芸員
古里小学校6年生（50名）　婦中埋蔵文化財資料館　平成21年5月1日

③朝日小学校社会科見学「校外学習」
朝日小学校6年生（15名）　婦中埋蔵文化財資料館　平成21年6月25日

④市民バス教室見学　小黒智久主査学芸員
長岡地区センター（21名）　婦中埋蔵文化財資料館・安田城跡資料館　平成21年6月30日

⑤小竹貝塚出土遺物整理体験教室　堀内大介主査学芸員・小黒智久主査学芸員
親子(15名)　婦中埋蔵文化財資料館　平成21年8月21日

⑥「秋の研修会」　細辻嘉門主任学芸員
富山県退職女性校長会(梅の実会)（50名）　婦中埋蔵文化財資料館・王塚古墳・勅使塚古墳・ふるさと創生館　平成21年9月17日

⑦市民バス教室見学　小黒智久主査学芸員
五福公民館(49名)　婦中埋蔵文化財資料館　平成21年10月15日

⑧町村寿康会
町村寿康会(25名)　婦中埋蔵文化財資料館　平成21年10月20日

⑨富山市民大学講座　細辻嘉門主任学芸員
八尾教育行政センター(24名)　婦中埋蔵文化財資料館　平成21年11月13日

⑩富山市民大学講座　細辻嘉門主任学芸員
受講生(30名)　婦中埋蔵文化財資料館　平成21年11月18日

⑪研修会参加等
平成21年度「埋蔵文化財担当職員等講習会」　野垣好史主査学芸員　平成21年1月27日～1月28日

⑫「越中と美濃を結ぶ考古展」記念講演会　岐阜市歴史博物館 堀沢祐一生涯学習課文化財係長　平成21年11月8日

(9)新聞記事掲載（平成21年3月～平成22年3月12日）

2009,03,07　「富山城の歴史 解説（古川知明）」(北日本)

2009, 03, 14 「越中賛歌・偉大な縄文時代人（清口優司）」（北日本）
2009, 03, 18 「北代縄文館 縄文中期の暮らし伝える
（企画展「大山地域の縄文遺跡（2）～東黒牧上野遺跡（A地区）～」）」（北日本）
2009, 03, 20 「旧県庁付近から石組水路 富山城址」（富山）
2009, 03, 25 「きょう発掘調査説明会 富山城址公園」（北日本）
2009, 03, 25 「先人の暮らし伝わる 6 遺跡出土品展示
（発掘速報展「貝塚・集落・城下町を掘る」）」（北日本）
2009, 03, 26 「石組水路、廃棄物の穴見学 富山城跡」（富山）
2009, 03, 26 「明治期水路跡を公開 富山城址公園」（北日本）
2009, 04, 09 「縄文食事情意外に豊か 富山・小竹貝塚（堀内大介コメント）」（北日本 夕刊）
2009, 04, 20 「古里歴史ロマン 小出城」（北日本）
2009, 04, 27 「小竹貝塚の調査を紹介（堀内大介）」（北日本）
2009, 04, 28 「古里の歴史楽しもう 体験企画いっぱい（北代縄文広場）」（北日本）
2009, 04, 29 「貝殻装身具・骨角器並ぶ 北代」（北日本）
2009, 05, 01 「お勧めの新名物 富山城の石垣」（富山）
2009, 05, 02 「昔の生活を伝える 富山の北代縄文広場」（富山）
2009, 05, 09 「ざっくばらん（富山市北代縄文広場管理人 平野昭夫）」（北日本）
2009, 05, 18 「古里歴史ロマン 米田大覚遺跡」（北日本）
2009, 05, 21 「富山城址公園 利次期の石積み確認」（北日本）
2009, 05, 22 「ざっくばらん（富山市教育委員会埋蔵文化財センター嘱託 秋葉保香）」（北日本）
2009, 06, 02 「あす富山城石垣ツアー」（北日本）
2009, 06, 03 「竪穴住居跡 4 棟発見 富山・小竹貝塚」（北日本）
2009, 06, 03 「富山・小竹貝塚で初 竪穴住居跡 4 棟」（富山）
2009, 06, 04 「「富山城」に思いをはせ 石垣見学ツアー始まる」（北日本）
2009, 06, 04 「富山城の石垣見学」（富山）
2009, 06, 07 「縄文の暮らしぶり紹介 富山・小竹貝塚」（富山）
2009, 06, 08 「安田城址と埋蔵資料館」（富山）
2009, 06, 13 「安田城跡 来場 10 万人 富山」（富山）
2009, 06, 13 「来場 10 万人越え 安田城跡歴史の広場」（北日本）
2009, 06, 14 「古里歴史ロマン 友坂遺跡」（北日本）
2009, 06, 14～26 「わが半生の記 越中人の系譜 藤田富士夫①～⑬」（北日本）
2009, 06, 16 「富山城石垣ツアー」（北日本）
2009, 06, 21 「わが心の一冊 小松博幸」（北日本）
2009, 06, 24 「婦中埋蔵文化財資料館 弥生の生活伝える 40 点並ぶ
（企画展「王塚・千坊山遺跡群とその時代 7・弥生時代の木製品）」」（富山）
2009, 07, 01 「市民バス教室 婦中の遺跡に興味津々（婦中埋蔵資料館）」（北日本）
2009, 07, 02 「70 人が石垣見学（富山城址公園）」（富山）
2009, 07, 10 「富山城戦国期の井戸跡「中世富山城」の謎に迫る」（富山）
2009, 07, 11 「富山城址公園内 戦国時代の井戸跡発見」（読売）
2009, 07, 12 「社説 富山城に中世井戸跡」（富山）
2009, 07, 14 「富山城址公園出土の金装品 珍しい竹製品でした（古川知明コメント）」（北日本）
2009, 07, 16 「下呂石の石器愛用（古川知明コメント）」（北日本）
2009, 07, 17 「富山市郷土博物館 前田家の丁子梅鉢紋を紹介（企画展「梅鉢紋をさがそう」）」（北日本）
2009, 07, 17 「市民バスで婦中の歴史」（富山）
2009, 07, 18 「金箔張りの竹製品」（富山）
2009, 07, 18 「北代縄文広場 10 周年 25 日にアイヌ舞踊イベント」（北日本）
2009, 07, 19 「富山と岐阜の交流示す土器 富山で考古展」（富山）
2009, 07, 19 「珠姫の「金沢は“城下町じゃ”」147・富山城（古川知明コメント）」（北國）
2009, 07, 20 「珠姫の「金沢は“城下町じゃ”」148・高岡城（古川知明コメント）」（北國）
2009, 07, 23 「来場者 10 万人到達 富山・北代縄文広場」（北日本）
2009, 07, 23 「10 年目、来場者 10 万人を達成 富山の北代縄文広場」（富山）
2009, 07, 25 「記念事業と伝統文化 PR 鵡川アイヌ文化協富山市役所を表敬」（富山）
2009, 07, 26 「アイヌ文化に感動 北代縄文広場 10 周年記念」（北日本）
2009, 08, 10 「縄文の装身具で暮らし再現（北代縄文広場）」（新潟日報）
2009, 08, 13 「橋台は富山城の石垣（古川知明コメント）」（北日本）
2009, 08, 14 「縄文広場を楽しむ」（北日本）
2009, 08, 22 「越中と美濃を結ぶ考古展講演会
（演題「古代社会の中央と地方－重文・美濃国刻印須恵器を中心に」高木洋）」（北日本）

2009, 08, 22 「小竹貝塚　出土遺物整理体験教室（富山市婦中埋蔵資料館）」（北日本）
2009, 08, 22 「出土品を分類、洗浄　婦中埋蔵文化財資料館」（富山）
2009, 08, 23 「武者行列勇ましく　安田城月見の宴（安田城跡）」（富山）
2009, 08, 27 「最新の発掘物ずらり（富山市郷土博物館）」（北日本）
2009, 08, 29 「奈良・平安の越中国　祭祀遺跡の分布解明（堀沢祐一コメント）」（北日本）
2009, 09, 07 「富山城本丸の入り口　鉄御門の台板存在裏付け（古川知明コメント）」（富山）
2009, 10, 06 「大手門の石垣出土　富山城正門」（北日本）
2009, 10, 06 「富山城「大手門」の石垣発見　位置や規模特定」（読売）
2009, 10, 06 「正門の石垣初確認　富山城」（富山）
2009, 10, 08 「石垣じっくり観察　富山城址公園でツアー」（北日本）
2009, 10, 11 「ニュース質問箱・富山城大手門の石垣確認」（富山）
2009, 10, 12 「富山城大手門の石垣　城下町の象徴を活用したい」（富山）
2009, 10, 21 「富山市郷土博物館　富山藩の出兵伝える記録並ぶ（企画展「富山藩の出兵」）」（富山）
2009, 11, 02 「富山城最大の門　二階櫓門の石垣発見」（北日本）
2009, 11, 03 「富山城　二の丸櫓門の石垣発掘」（富山）
2009, 11, 16 「古里歴史ロマン　富山城の城下町跡　富山城大手町」（北日本）
2009, 11, 16 「古代からのつながり・下呂石（特別展「越中と美濃を結ぶ考古展」）」（岐阜　夕刊）
2009, 11, 17 「古代からのつながり・土器の文様（特別展「越中と美濃を結ぶ考古展」）」（岐阜　夕刊）
2009, 11, 18 「古代からのつながり・蛇紋岩（特別展「越中と美濃を結ぶ考古展」）」（岐阜　夕刊）
2009, 11, 19 「古代からのつながり・人面墨書土器（特別展「越中と美濃を結ぶ考古展」）」（岐阜　夕刊）
2009, 11, 19 「富山市郷土博物館　戊辰戦争の屏風公開」（北日本）
2009, 11, 19 「ガラス玉 70 点出土　富山・百塚遺跡」（北日本）
2009, 11, 20 「富山・百塚遺跡　県内最多ガラス玉 70 点」（北陸中日）
2009, 11, 20 「富山・百塚遺跡　埋葬施設を発見」（毎日）
2009, 11, 20 「ガラス玉最多 70 個出土　富山・百塚遺跡」（富山）
2009, 11, 20 「墳墓 11 基、有力首長か　富山の百塚遺跡」（朝日）
2009, 11, 20 「富山・百塚遺跡　副葬ガラス玉 70 点出土」（北日本）
2009, 11, 22 「古代の遺跡説明　富山・百塚」（富山）
2009, 11, 24 「越中と美濃 2　岐阜市歴史博物館特別展　縄文晩期「姉妹土偶」（三山らさ）」（岐阜）
2009, 11, 27 「越中と美濃 3　岐阜市歴史博物館特別展　縄文晩期「御物石器」（三山らさ）」（岐阜）
2009, 11, 29 「高岡城の歴史理解（郷土学習講座「富山城から見た高岡城」古川知明）」（北日本）
2009, 12, 04 「富山・百塚遺跡　川原石を使った埋葬施設も」（北日本 夕刊）
2009, 12, 05 「越中と美濃 5　岐阜市歴史博物館特別展　人形　祓の行事に使用（吉田晋右）」（岐阜）
2009, 12, 09 「縄文土器に貴重な朱　富山市北代遺跡」（北日本）
2009, 12, 21 「09 回顧「考古学」鹿島昌也」（北日本）
2009, 12, 21 「古里ロマン　百塚遺跡」（北日本）
2010, 01, 01 「富山城・鉄御門　石垣に固定用の加工跡（古川知明コメント）」（富山）
2010, 01, 04 「富山城大手門ジオラマに」（富山）
2010, 01, 15 「大手門跡にプレート設置」（富山）
2010, 01, 23 「まなびや賛歌・富山市古里小　歴史に親しみ住民交流」（富山）
2010, 01, 24 「縄文冬祭り開催（北代縄文広場）」（富山）
2010, 01, 29 「旧総曲輪小跡地を発掘へ」（富山）
2010, 02, 04 「富山市郷土博物館　町人文化を伝える版画 41 点展示
（企画展「富山町人の姿ー時代の転換期を描く『御慶事賦物』を見る」）」（北日本）
2010, 02, 10 「お礼で地域再発見　水橋専光寺・土井さん」（北日本）
2010, 02, 22 「村おこしに縄文の祭礼　婦中道島上野地区
（出前講座「遺跡からみた富山の歴史（縄文時代の祭祀）」（堀内大介）」（北日本）
2010, 02, 26 「富山市の中世集落④ー八町Ⅱ遺跡ー　富山・安田城跡資料館」（富山）
2010, 03, 05 「縄文人の暮らし紹介
（企画展『むかしむかしの大山縄文人の暮らし』大山歴史民俗資料館）」（北日本）
2010, 03, 06 「"謎の絵画"土器出土　富山市今市遺跡」（北日本）
2010, 03, 06 「富山市初の絵画土器展示」（富山）
2010, 03, 07 「弥生時代の絵画土器初公開」（毎日）
2010, 03, 09 「天地人・弥生時代の絵画土器について」（北日本）

6　遺跡地図管理

富山市内の埋蔵文化財包蔵地の総数は1,031箇所、面積は69,457,563㎡（平成22年2月末現在）です。これは富山市全域の面積1,241.85k㎡の約5.59%にあたります。これらの埋蔵文化財包蔵地は遺跡地図に登載され、埋蔵文化財センターをはじめ、市の開発部局、市立図書館、各教育行政センターで閲覧することができます。

①『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂版）1．旧富山市域』平成17年4月
②『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂版）2．旧大沢野町・大山町・八尾町・婦中町・山田村・細入村域』平成17年4月
③『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂2版）旧大沢野地域』平成19年3月
④『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂2版）大山地域』平成20年3月
⑤『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂2版）婦中地域』平成21年3月

平成21年度の埋蔵文化財包蔵地の新規登録、遺跡範囲の変更等

1．分布調査による新規遺跡登録

山田地域

No.	遺跡名（遺跡番号）	所在地	種別	面積（㎡）	時代（時期）
1	山田清水遺跡(363013)	山田清水	散布地	3,500	縄文
2	赤目谷遺跡(363014)	山田赤目谷	散布地	4,500	縄文（中～晩）
3	小島遺跡(363015)	山田小島	散布地	4,800	縄文
4	宿坊B遺跡(363016)	山田宿坊	散布地	3,000	縄文

細入地域

No.	遺跡名（遺跡番号）	所在地	種別	面積（㎡）	時代（時期）
1	片掛権現遺跡（364029）	片掛権現	散布地	3,000	縄文・中世・近世
2	前田遺跡(364030)	西笹津字前田	散布地	4,500	中世・近世
3	久太郎木遺跡(364031)	西笹津字久太郎木	散布地	3,500	縄文・近世
4	西下島遺跡(364032)	楡原字西下島	散布地	2,800	平安・近世
5	中島遺跡(364033)	楡原字中島	散布地	1,000	中世
6	上野遺跡(364034)	庵谷字上野	散布地	6,500	縄文・中世・近世
7	中沢遺跡(364035)	猪谷字中沢、洞	散布地	5,000	縄文・中世・近世

2．分布調査による遺跡範囲の変更等

山田地域

No.	遺跡名（遺跡番号）	備　考
1	宿坊A遺跡（363001）	名称変更（旧称：宿坊遺跡）
2	宿坊寺遺跡(363002)	面積52,800㎡　南西側に範囲拡大
3	小谷遺跡(363011)	面積23,800㎡　北東側に範囲拡大

細入地域

No.	遺跡名（遺跡番号）	備　考
1	楡原北（364010）	面積34,000㎡　西側に範囲拡大
2	楡原遺跡（364012）	面積46,800㎡　（旧称：大次平田遺跡を統合）
3	片掛西遺跡(364017)	面積34,500㎡　北側に位置訂正
4	蟹寺遺跡(364021)	面積42,000㎡　東側に範囲拡大
5	IND-1（仮称）（364026）	削除（遺跡番号欠番）
6	庵谷西(364027)	名称変更（旧称 IND-2 仮称）

その他地域

1．新規遺跡登録

①小糸西B遺跡（No.301093）11,000㎡　縄文時代
②掛畑城跡（No.361088）11,000㎡　戦国時代

2．遺跡範囲の変更等

①百塚遺跡（No.201189）56,100㎡　試掘調査による遺跡範囲の拡大
②岩木新遺跡（No.301011）16,750㎡　試掘調査による遺跡範囲の拡大
③西塩野遺跡（No.301066）13,500㎡　試掘調査による遺跡範囲の縮小

7　研究

(1)小研究会

1. 野垣好史学芸員「富山城の石垣調査―これまでの研究成果から―」平成21年7月2日
2. 鹿島昌也主査学芸員「発掘調査費用積算検討会」平成21年8月12日
3. 高木洋氏（岐阜市立歴史博物館館長）「岐阜市の埋蔵文化財事情」平成21年8月23日
4. 鄒聴氏（香港中文大学）・劉國祥氏（中国社会科学院考古研究所）「中国と日本（小竹貝塚等）出土の玦飾の比較検討」平成21年11月30日
5. 坂口諒子氏「富山市における縄文時代の赤色顔料について」平成22年3月10日

（会場：1, 2, 4, 5 富山市埋蔵文化財センター会議室、3 富山市佐藤美術館講堂）

小研究会の様子

(2)論文・報告・紹介（2009, 4～2010, 3）*富山市内の遺跡に関連するものも含みます。

青山晃	2009, 6	「水橋金広・中馬場遺跡の古代道路について」『富山考古学研究－紀要第12号－』財団法人　富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
池野正男	2009, 11	「律令的土器様式の成立過程と生産形態」『環日本海歴史民俗学叢書 13 古代の越中』高志書院
大野究	2009, 11	「七世紀の遺跡からみた越中四郡」『環日本海歴史民俗学叢書 13　古代の越中』高志書院
小黒智久	2009, 3	「地中が語る倉垣地区の音」『倉垣郷土史』倉垣自治振興会
小黒智久	2009, 6	「新潟県村上市磐舟浦田山２号墳石室の再検討」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
小黒智久	2010, 1	「論文展望　新潟県村上市磐舟浦田山２号墳石室の再検討　新潟県の考古学Ⅱ」『季刊考古学』第110号　雄山閣
久々忠義	2009, 6	「白鳥城下の中世集落について」『富山考古学研究－紀要第12号－』財団法人　富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
久々忠義	2009, 11	「古代越中の農業技術」『環日本海歴史民俗学叢書 13　古代の越中』高志書院
小林高範	2010, 2	「播隆シンポジウムと資料館企画展等を振り返って」『大山の歴史と民俗』第13号　大山歴史民俗研究会
佐伯哲也	2010, 2	「薬師岳山頂の信仰遺跡について」『大山の歴史と民俗』第13号　大山歴史民俗研究会
松山充宏	2010, 2	「桃井直常の墓所伝承地」『大山の歴史と民俗』第13号　大山歴史民俗研究会
坂口諒子	2010, 3	「富山市域における縄文時代の赤色顔料について」『富山市考古資料館紀要』第29号　富山市考古資料館
佐藤慎・高橋浩二・細辻嘉門・堀大介	2009, 9	「フォーラム第２部討論」『王塚・千坊山遺跡群国指定記念　平成20年度「婦負の国　弥生フォーラム」記録集　ムラの景観―集落と墳墓―』富山市教育委員会
佐藤慎	2009, 9	「斐太遺跡群にみる集落景観」『王塚・千坊山遺跡群国指定記念　平成20年度「婦負の国　弥生フォーラム」記録集　ムラの景観―集落と墳墓―』富山市教育委員会
鈴木景二	2009, 11	「越中の東大寺荘園と田図」『環日本海歴史民俗学叢書 13　古代の越中』高志書院
高梨清志・野垣好史	2009, 9	「富山県の動向」『中世史・考古学情報』第8号　伊勢中世史研究会
高橋浩二	2009, 11	「古墳時代の越中」『環日本海歴史民俗学叢書 13　古代の越中』高志書院
根津明義	2009, 11	「古代越中における官衙的様相と在地社会」『環日本海歴史民俗学叢書 13　古代の越中』高志書院

野垣好史	2009, 5	「2008年の考古学界の動向　古墳時代北陸」『考古学ジャーナル』586　ニューサイエンス社
長谷部真吾	2010, 3	「富山城跡出土の竹製水道施設について」『富山市の遺跡物語』所報第11号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター
藤田富士夫	2009, 5	「縄文人の算術と計数具に関する若干の考察」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』No.7　敬和学園大学
藤田富士夫	2009, 7	「蛇紋岩石斧の生産と交流」『越中と美濃を結ぶ考古展　交流の始まり　旧石器時代～古代』富山市教育委員会埋蔵文化財センター
藤田富士夫	2009, 11	「東アジアの玦飾の製作技術―日本列島―」『玦状耳飾（玦飾）の製作技術からみた玉文化交流』日本玉文化研究会長野大会実行委員会
藤田富士夫	2010, 3	「四隅突出型方墳を教わる」『前島己基氏追悼集』前島己基氏追悼集刊行会
古川知明	2009, 7	「下呂石と富山平野」『越中と美濃を結ぶ考古展　交流の始まり　旧石器時代～古代』富山市教育委員会埋蔵文化財センター
古川知明・野垣好史・小林高太・蓮沼優介	2010, 3	「富山藩主墓所長岡御廟所基礎調査報告」『富山市考古資料館紀要』第29号　富山市考古資料館
古川知明・松浦正昭・（株）吉田生物研究所・（株）パレオ・ラボ	2010, 3	「医王山事業寺蔵木造不動明王坐像の年代測定分析について」『富山市考古資料館報』No.47　富山市考古資料館
古川知明	2010, 3	「富山船橋常夜灯について」『富山史壇』第161号　越中史壇会
古川知明	2010, 3	「富山県における下呂石の搬入状況」『越中と美濃を結ぶ考古展』富山市教育委員会埋蔵文化財センター
古川知明	2010, 3	「富山城下町における江戸期卜占の一例―越前焼擂鉢の使用例から―」『富山市の遺跡物語』所報第11号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター
細辻嘉門	2009, 9	「越中の集落と墳墓について」『王塚・千坊山遺跡群国指定記念　平成20年度「婦負の国　弥生フォーラム」記録集　ムラの景観―集落と墳墓―』富山市教育委員会
細辻嘉門	2010, 2	「杉谷4号墳と四隅突出墳」『遠久染（おくだ）』第87号　富山薬窓会
細辻嘉門	2010, 3	「富山市婦中町平岡遺跡出土の石製品について」『富山市の遺跡物語』所報第11号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター
堀　大介	2009, 3	「高地性集落の歴史的展開―福井県の事例を中心に―」『王塚・千坊山遺跡群国指定記念　平成20年度「婦負の国　弥生フォーラム」記録集　ムラの景観―集落と墳墓―』富山市教育委員会
堀沢祐一	2009, 11	「越中の祭祀・仏教関係遺跡と遺物」『環日本海歴史民俗学叢書13　古代の越中』高志書院

8　刊行物・発掘調査報告書等（2009年度）

（1）発掘調査報告書

No.36. 富山城跡発掘調査報告書(2009. 7)
No.37. 富山市上新保遺跡発掘調査報告書(2009. 9)
No.38. 富山市米田大覚遺跡発掘調査報告書(2009. 12)
No.39. 富山城跡発掘調査報告書(2010. 1)
No.40. 富山市八ヶ山A遺跡発掘調査報告書(2010. 3)

（2）刊行物

北代縄文通信　第27号(2009. 7)
北代縄文通信　第28号(2009. 9)
平成21年度岐阜市富山市都市間交流事業「越中と美濃を結ぶ考古展　交流の始まり　旧石器時代～古代」展示図録　(2009. 7)
王塚・千坊山遺跡群国指定記念　平成20年度「婦負の国　弥生フォーラム」記録集　ムラの景観－集落と墳墓－　(2009. 9)
富山市の遺跡物語No.11　富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報　(2010. 3)

9　埋蔵文化財センター組織

所　長１ ―― 主査１
　　主査学芸員７
　　主任学芸員１
　　学芸員　１ ―― 嘱託５

事業費

①	埋蔵文化財調査費	６３，８７８千円
②	体制整備・一般管理費	９３，５５４千円
③	普及活動費 発掘速報展開催	３，４６５千円
④	遺跡・史跡保護管理費 北代縄文広場管理	１４，５７２千円

富山市埋蔵文化財センター販売図書のお知らせ

「越中と美濃を結ぶ考古展　交流のはじまり
旧石器時代～古代」展示図録

2009年に開催しました「越中と美濃を結ぶ考古展」の展示図録です。(2009年・A4・P63)
この記録集は、富山市郷土博物館でも販売しております。
価格：1冊800円　送料：1冊290円。

王塚・千坊山遺跡群国指定記念
「婦負の国　弥生フォーラム」記録集

「四隅突出型墳丘墓を探る～首長と地域社会～」(平成18年度)、「『婦負のクニ』成立のころ－四隅突出型墳丘墓から前方後方へ－」(平成19年度)、「ムラの景観　－集落と墳墓－」(平成20年度)を販売しております。この記録集は、富山市考古資料館でも販売しております。
価格：1冊500円　送料：1冊210円、2冊290円、3冊340円
(3冊以上の場合は別途お問い合わせください。)

図書購入希望の方は、タイトルと冊数を明記し、書籍代金（現金書留あるいは定額小為替）と送料（切手）を同封の上、当センター宛にご送付ください。

お申込み　富山市教育委員会埋蔵文化財センター
〒930-0091　富山市愛宕町1-2-24
TEL　076-442-4246　FAX　076-442-5810
E-mail：maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

調査報告　富山城二ノ丸二階櫓門石垣

1．概要

P10 で紹介したとおり、市内電車環状線化に伴う工事立会調査、発掘調査で様々な遺構・遺物を確認した。その成果は報告書として刊行した(※)が、刊行後に実施した調査もある。このなかでも重要と思われる表題の石垣調査成果について概要を報告する。

調査地点は県道富山高岡線の大手町交差点である。軌道および電気管埋設工事に伴い、工事立会を実施した。7月 10 日に一部露出した石材の調査を行い、本格的な軌道工事が7月 22 日の夜間に行われたのに合わせて立会調査を実施した。

※富山市路面電車推進室・富山市教委 2009『富山城跡発掘調査報告書』

2．二階櫓門石垣の概要

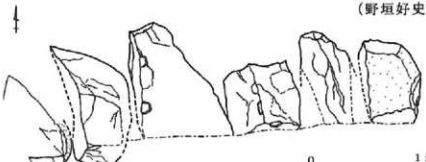
二階櫓門石垣は二ノ丸西部の入口にあり、東西に石垣が並んでいた（P10 の絵図参照）。石垣は前田利長が慶長 10（1605）年に城の整備を行ったときに造られたと考えられ、その後、何度かの積替えを経て、明治期に解体された。東西の石垣の間には、一階を門、二階を櫓とした二階櫓門が置かれた。

3．調査の成果

検出したのは東石垣の南辺部の石材である。道路面下約 0.7mで、6石が東西に並んでいた。西側は調査区外に続くが、東側は石材がみられなかったので明治以降の開発で除去されたと考えられる。また、下層に石材はなかったので最下段の石材である。基盤面の標高は約 7.3mである。石材は花崗岩が多く、いずれも割石である。矢穴が残るものもあった。刻印はみられない。各石材の石面の幅は 0.6m、控えは 1m前後である。石垣のすぐ北を水道管が併行に走っており、裏込は敷設時に除去されたようである。

なお、工事では東石垣の西辺の一部も工事掘削対象となったが、石材はみられなかった。削平と考えられる。

（野垣好史）



研究余話Ⅰ

富山市婦中町平岡遺跡出土の石製品について

—玦飾に関する新資料の紹介—

細辻　嘉門
（埋蔵文化財センター主任学芸員）

1　遺跡の概要

平岡遺跡（図1）は、富山市西部に位置し、呉羽山丘陵南端から続く河岸段丘上に立地する旧石器・縄文・奈良・平安時代の集落遺跡である。遺構の分布が確認された場所の標高は60m前後である。

遺跡は、昭和26年発行の森秀雄著『大昔の富山県』に既に登載されており、古くから縄文時代の遺跡として知られ、多くの研究者が表面採集に訪れている。

採集品には、ていねいに加工された石鏃・石錐・石匙などの石器や、玦飾・管玉などの装飾品がある。

石鏃は栗山邦二氏の採集品だけで1,000点以上あり、県下でも最多である。

玦飾などの装飾品は100個程度採集されているが、原石や未製品が見られないことから、平岡遺跡以外の場所で製作され、運び込まれたものと推測されている（婦中町1996）。

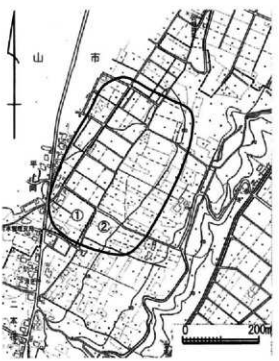


図1　遺跡位置図・遺物出土位置図（1/10000）

2　出土遺物の概要

紹介する出土遺物は2点ある。

1（図2左・写真1-2）は、平成21年度に実施した県道新設工事に先立つ試掘調査の際、35トレンチの茶褐色土排土から出土した。

完形品で、大きさは全長6.7㎝・最も広い部分の幅2.7㎝・厚さ0.6㎝、重量は19ｇである。

下に向かって広がる縦長の二等辺三角形で、磨製石斧のようなプロポーションである。日本鉄に例えられる場合もある。上部に孔を穿ち、孔から下端部にわたって中央に切れ目がある。側面にも明確に面を形成している。

縦断面形は、中央よりやや下端部側で最大厚をとり、上下端部に向かって緩やかに薄くなる。下端部は磨製石斧の刃先のように鋭くなっている。横断面形は、中央部で最大厚をとり、両側面に向かって緩やかに薄くなる。

孔は上方に偏っており、大きさは5㎜前後である。表裏両方向から穿孔されている。

孔壁と孔の周囲には擦痕が円を描くように残っており、穿孔具の連続回転運動によって穿孔されている。孔上部の擦痕は、若干不明瞭である。

切れ目は、断面Ｖ字状を呈し、孔に接した部分が最も浅く、下端部に向かうにしたがって深くなっていく。孔を穿った後、長軸方向への擦り切りによって形成されている。孔の上部には、切れ目を擦り切る際についた傷が残っている。

片面には原石の自然面が残っているが、全体を磨いて仕上げられており、表面全体は滑らかである。色調はやや緑がかった白色である。石材は蛇紋岩とみられる。

同じ茶褐色土から羽状縄文を施した土器が出土しており、帰属する時期は縄文時代前期後葉～末葉に比定される。

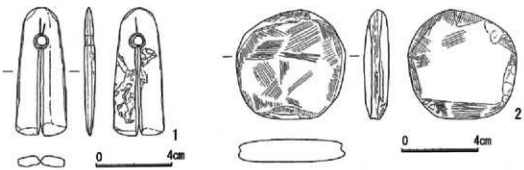


図2　玦飾型垂飾(1)、玦飾未製品(2)実測図　(S=1/2)

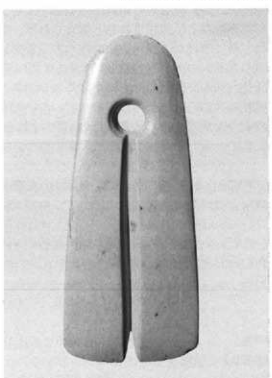


写真1　1の表面

写真2　1の裏面

写真3　2の表面

写真4　2の裏面

2（図2右・写真3-4）は、平成15年度に実施した試掘調査の際、26トレンチ排土から出土した。大きさは直径5.7㎝・厚さ1.2㎝、重量は70ｇである。いびつな円形で、側面には溝が巡る。断面形は、全体にほぼ同じ厚さであるが、中央でわずかに最大厚となる。

表面全体には擦痕を残し、全体に磨き上げられている。擦痕の方向は一定ではない。

側面の溝は、断面は緩やかなV字状で全周する。一部分は側面から表面に外れており、螺旋状に施溝されているようにも見える。擦り切り技法で施溝されたと考えられる（1）。

色調は暗い白色に緑色が不規則に斑状に入っている。石材は蛇紋岩とみられる。

26トレンチからは蜆ヶ森Ⅱ式や福浦上層Ⅰ式に比定される土器が出土しており、帰属する時期は縄文時代前期後～末葉に比定される。

3　若干の考察

1は玦飾型の垂飾と考えられる。孔上部の擦痕の不明瞭さが、紐などと擦れたためとすると、切れ目が途中の玦飾未製品ではなく、これで完成品として垂飾などに使用されたと考えられる。玦飾のかたちを意識した垂飾として製作されたと推測され、身に着けた人は、玦飾の持つ力を垂飾にも得ようとしたのか、それとも玦飾製作と何らかの関連がある人なのかもしれない。

2は玦飾の石材と考えられる。玦飾製作の初期段階で、円形に加工した石材を薄くスライスしようとした途中のものと考えられる。平岡遺跡では、現在のところ玦飾製作は行われていないと考えられており、この石製品が玦飾の石材であれば、どのような意図で持ち込まれたのか興味深い。

今後、発掘調査の進展によって、過去に採集されたものと合わせて、これら石製品の持つ意味が解明されると考えられる。

また、平岡遺跡と同時期に営まれた小竹貝塚では、平成20・21年度の調査で、貝塚から石製装飾品や未製品が大量に出土した。石製品について、組成などの研究が進むことによって、平岡遺跡の遺物との比較が行えると期待される。

今回、遺物全般について、藤田富士夫氏にご指導いただいた。図の作成には、秋葉保香氏・小林高太氏・蓮沼優介氏にご協力いただいた。記して感謝いたします。

＜註＞

（1）鄧聰氏（香港中文大学）のご教示による。

＜引用・参考文献＞

朝日町教育委員会 2003『富山県朝日町　柳田遺跡発掘調査報告書』

朝日町教育委員会 2005『富山県朝日町　柳田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』

小島俊彰 2008「蜆ヶ森式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション

高橋修宏 1962「第7章考察とまとめ　第1節　北陸縄文前期後・末葉土器編年の再考」『小泉遺跡』大門町教育委員会

田中昌樹 2002「岩坪岡田島遺跡出土の縄文土器　―「蜆ヶ森式土器」・「朝日下層式土器」の新資料の紹介―」『富山考古学研究』紀要　第5号　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

樋口清之 1933「玦状耳飾考」『考古学雑誌』第23巻第1号・第2号　考古学会

藤田富士夫 1978「Ⅴ　2. 石器」『富山県滑川市安田古宮遺跡発掘調査報告書』滑川市史　考古編　滑川市

藤田富士夫 1983b「5　玦状耳飾」『縄文文化の研究　7　道具と技術』雄山閣出版株式会社

藤田富士夫 1983a「玦状耳飾の編年に関する一試論　―特に北陸及びその周辺を中心として―」『北陸の考古学』石川考古学研究会々誌　第26号　石川考古学研究会

藤田富士夫 1989『玉』考古学ライブラリー52　ニューサイエンス社

婦中町 1996『婦中町史　通史編』

婦中町 1997『婦中町史　資料編』

町田賢一 2007「第Ⅵ章　考察　1岩坪岡田島遺跡の縄文時代　―富山県における縄文時代前期のあり方―」『岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

研究余話Ⅱ　富山城跡出土の竹製水道施設について

長谷部真吾
（埋蔵文化財センター嘱託）

1　はじめに

平成20年の富山市内路面電車施設工事に伴う工事立会調査において、外堀南側の武家屋敷地とさらに南側の町屋敷地との境となる青割水路（下水）を検出した際に、竹を使った水道施設（竹樋）が発見された。

出土竹製品は、出土木材よりも脆弱で劣化しやすく遺存しにくいため確認されている事例は少なく、文献以外でその利用方法を知ることが難しい。本稿では富山城跡から発見された竹樋を例に挙げ、竹製品利用の一端を明らかにすると共に富山県以外で確認された水道施設との比較・検討を行った。

2　我が国での竹利用の歴史

我が国において竹材を利用した製品の歴史は、古くは縄文時代の遺跡から発掘される遺物に見ることができる。しかし、竹は元来、温帯系の植物であるため当初は九州の南部など気候風土が温暖な地域にしか自生しておらず、竹製品の多くは耐寒性のあるメダケ等の「篠竹」が多く使われ、竹材は室町時代中期までは中国や東南アジアから輸入していた。

室町時代後期に竹の移植法が広く知られるようになり、全国のあちこちに治水灌漑のための竹林造成が盛んに行われ、竹林増大とともに籠や笊などの竹器が生活必需品として市場に出回るようになった。さらに、茶道の普及によって茶杓、茶筅など竹製品は幅広く用いられるようになる。

江戸時代になると、各藩が河川の治水のために積極的に竹林を造成していった。それらの竹林や竹藪は藩の公有か高持百姓の所有で自由に刈り出すことはできなかった。しかし、竹林全体の発育のために茂りすぎた竹の間伐材は安価で買うことができたため、竹林周辺に住む土地を持たない底辺の民衆が、資本もいらず手元に道具さえあればできる竹製品の製作を専業とするようになった（沖浦 1991）。

3　富山県での竹利用の歴史

富山県では福光町の梅原護摩堂遺跡から茶筅が発見されている。この遺跡は中世後期の村落で、この頃には竹製品が民衆にまで広がっていたことがわかる。文献では慶長末期から三代藩主利常によって御林の設置が始まり、寛永9年（1632年）に新川群島尻村の竹林を「取立林」に指定し、地元農民にこれを監視させている。その後、寛永9年（1661年）に砺波群では山田野・浅地・鷹栖・伊勢領村、射水郡では一宮・串岡・黒川村などに御藪があり（『山廻役御用勤方覚帳』）、その御藪に設置された竹は唐竹であることがわかっている（山口 2008）。唐竹とは富山県ではマダケとハチクのことで、この名称は中国（唐）より伝わった竹であることからそう呼ばれていた。

御藪の竹はどのように利用されたのか新川群の御藪を例に挙げると、新川群は上納金を得るためと富山城下で日用品を得るため年間約3,500本の竹を富山町に販売していた。その竹は建築用、竹細工用に利用された他に普請用にも用いられている。富山県には黒部川、常願寺川、庄川、小矢部川など県内を縦断する川があり、その氾濫を抑えるための川除普請が必要だった。当時の川除普請は竹籠の中に石を詰めて川除堤を作っていた。普請用の竹は御用竹と呼ばれており、竹籠はこの竹から作られ1回の普請で使われた竹は弘化元年（1844年）の記録によると22,504本にもなる。竹籠は川の増水などで耐久性が無くなりすぐに壊れてしまうため毎年新たな竹籠が必要となった。そのため領内の竹がしだいに枯渇し始め、寛文期から加賀藩は藩内の竹を他国領へ移出することを禁止するようになった。さらに幕末になると竹の一大産地である長州藩から竹材の輸入が始まり、安政5年（1858年）には約30万本もの竹が輸入された（富山県 1983）。

このように竹は、歴史的に見ても我々の生活と深く関わっており、富山県においてもなくてはならない植物であったことがわかる。

4　石川県・福井県での竹樋の出土例

竹を用いた水道施設は全国各地で発見されているが、今回は近隣の石川県と福井県での出土例を紹介したい。

石川県では昭和町遺跡（金沢市教委 1998）、醒ケ井遺跡（金沢市教委 2001）、木ノ新保遺跡（石川県教委 2002）から竹樋と木製の継手が発見されている。竹樋は溜め枡か井戸に接続されており、検出した竹はいずれも節が取り除かれ管状になっていた。木製の継手には埋設方向を変えたり、竹樋を延長したりする目的があったと考えられている。長田町遺跡（金沢市教委 1998）から発見された竹樋からは継手が発見されておらず、竹樋のみが出土している。そのため竹管から直接、井戸に繋いでいたと考えられている。この4遺跡はいずれも金沢城下北西端部に位置している近世の城下町遺跡で、正確な年代はわからないが、近世から近代にかけての遺物と推定されている。

福井県の福井城跡からは各屋敷への給水に関わる遺構として竹管、桶製の溜め枡、汲み上げ井戸が発見されている。福井城下の湧水には多量の鉄分が含まれていたため、飲用水には不適であった。そのため、福井城（北庄城）築城と同時に上水道が開削されており、発見されたのはその一部である。上水路の一部では江戸の上水路と違い、開渠のまま屋敷近くまで入り込む開渠式上水路も見られた。これら竹管上水道遺構は、出土遺物から幕末～明治頃と考えられている（福井県教育庁 2004）。

5　富山城跡より出土の竹製水道施設

今回発見された竹樋は水を通す竹管の一部と竹管同士を繋ぐ木製の継手である。竹樋は背割下水の東西方向の石積みに直交し、最下段の石積みの下を通して竹管を北方向へ延ばし、その竹管を木製の角材に穴を開け固定された形で発掘された（富山市教委 2009）。

竹管は途中で切断されているため正確な長さはわからないが、取上げた際の竹管の長さは最長 42.5cm、節間長は約 23cm である。平面図より北側の竹管の長さを推定すると 1.5m 以上の長さになる。節の節環は2つあり、節環の上部は凸状に隆起した「節輪」が見られ、節環の下部には稈鞘痕を示す「稈鞘輪」が見られることからマダケであると考えられる。この竹管は節が取り除かれ管状になっていた。色調は発見当時、鮮やかな黄緑色であったが、取上げてから数日経つと茶色に変色した。発見当時の色合いから生長1年目の「一年竹」と呼ばれる竹で、夏から秋にかけて伐採されたものと推定できる。

継手は木製で縦 14cm 横 28cm 高さ 13cm の長方体であり、側面に直径 6cm の挿入孔が見られる。発見当時、挿入孔の両側から

出土した竹管と継手

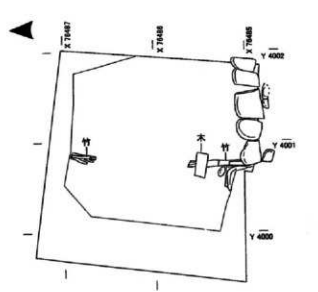


図1 背割水路平面図（1:40）

竹管が差し込まれていたため、水をより遠くまで送るためにこの継手を用いていたことがわかる。

6　まとめ

今回、富山城跡より発見された竹樋は発見時、まだ黄緑色をしていたことから竹を加工する際に行われる油抜きを施した「さらし竹」ではなく伐採後、すぐに竹樋として利用されていることがわかる。節間長も23cmと通常のマダケの節間長が30～50cmであることと比べると短く感じる。竹は寒冷な場所では節間の発育がよくないといわれており、節間が短いのは恐らくこのことが原因である。これらのことから今回出土した竹は富山県内の御藪より調達した竹であったと考えられる。また、竹管は1.5m以上と長いため、その節を取り除く際に稈を割らずに中を空洞にすることは困難である。どのように節を取り除いたのか考える際、参考になるのが大阪府の馬場川遺跡の事例である。この遺跡からは幕末の竹製の用水路跡が発見されているのだが、用水路に用いられた竹は竹稈を一度半分に割ってから節の隔壁を取り除き、再び元の形に戻してワラ状のもので巻いてあった。この方法であれば長い竹稈の節を容易に取り除くことが可能であるし、ワラ状のもので保護してあったために遺存しにくいはずの竹が今日まで良好な状態で出土したとも考えることができる。また、竹樋は各地の出土例と照らし合わせると、排水目的というよりは上水施設として利用されていたと考えられる。上水施設であることは石川県と福井県の城下町遺跡と共通するところであるが、武家屋敷地と町屋敷地の境からの発見は石川県と福井県だけでなく、それ以外の県での出土事例でも見ることができない特徴である。

今回、発見された竹樋は古絵図などではわからない富山城下町の様相を知る上で貴重な資料であるだけでなく、近世の北陸での水道施設整備をうかがい知ることができる貴重な資料でもある。前述したように出土竹は出土木材よりも脆弱で劣化しやすく、水漬けの状態でも5年程度で原型をとどめなくなってしまう。適切な保存処理を行い後世に伝えると共にさらなる解明のために引き続き調査することが望まれる。

＜引用・参考文献＞

富山市教育委員会 2009『富山市埋蔵文化財報告書36　富山城跡発掘調査報告書』
沖浦和光 1991『竹の民俗誌-日本文化の深層を探る-』岩波新書
山口隆治 2008『加賀藩の入会林野』桂書房
富山県 1983『富山県史・通史Ⅲ』
金沢市教育委員会 1998『金沢市文化財紀要172　金沢市昭和町遺跡Ⅰ』
金沢市教育委員会 2001『金沢市文化財紀要173　金沢市醒ケ井遺跡』
石川県教育委員会 2002『金沢市木ノ新保遺跡』
金沢市教育委員会 1998『金沢市文化財紀要143　長田町　長町　穴水町遺跡』
福井県教育庁埋蔵文化財センター2004『福井県埋蔵文化財報告第72集　福井城跡』
富山新聞社 2001『ふるさと富山歴史館』
室井綽 1973『ものと人間の文化史10　竹』法政大学出版局
内村悦三 2005『タケ・ササ図鑑－種類・特徴・用途－』創森社
竹内靖長 2009「江戸時代の上水施設－松本城跡における上水道構造－」『季刊考古学第108号』雄山閣
社団法人農山漁村文化協会 1993『人づくり風土記16　富山』
長谷部真吾 2006「出土竹製品の保存処理法について」『平成18年度文化財学科卒業論文要旨集』金沢学院大学

研究余話Ⅲ　富山市婦中町添の山古墳群の研究

小　黒　智　久
（埋蔵文化財センター主査学芸員）

1．小稿の目的

富山市婦中町には、平成17年3月に追加指定および名称変更された史跡王塚・千坊山遺跡群がある。北陸地方における弥生時代から古墳時代にかけての動向を示す良好な事例との理由で追加指定された本遺跡群には、四隅突出型墳丘墓や前方後方墳などの墳墓だけでなく、同時期の集落も確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての地域社会の変遷を辿れる良好な文化遺産として各方面の注目を浴びている。しかしながら、埋蔵文化財の範囲や性格等を把握するための試掘調査で得られた情報量は、遺跡群がもつ情報量からすると遥かに少なく、すでに煙滅した遺跡もある。限られた情報のなかでも、仮説として提示された地域像は検証され続けなければならない。小稿では、その前提作業の一つとして、史跡との関連性が想定される添の山古墳を検討する。

2．調査研究略史

調査　添の山古墳は、昭和41年の土取り工事によって煙滅したが、岡崎卯一氏によって工事に先立ち緊急調査が行われた。岡崎氏（岡崎 1966・1967・1969）によれば、外形は約 26m×24m、高さ約 3m（二段築成）で隅丸方形を呈し、周溝をもつという。また、墳丘の中央から西寄りで確認された長径約 2.1m、短径約 1.3m、深さ約 1.7mの小判形の「凹所」があり、褐色の砂質土などが堆積していた。その西南には急に落ち込んだ入口らしい部分があったという。この砂質土から古墳時代の土師器片数十と、須恵器片1が出土したとされる。岡崎氏は、これらの土器片は混入品と判断した（岡崎 1966, p. 2）。古墳の年代については、後期古墳は再び山頂に築かれることが多いとの理由から、6~7 世紀頃と位置づけた（岡崎 1967, pp. 76-78）。凹所については、当初は判断に苦慮していた（岡崎 1967）が、最終的には埋葬施設との判断に至った（岡崎 1969）。

現在、出土品は所在不明だが、一部の写真は『婦中町史』に掲載されている（岡崎 1967, p. 78）。写真判断なので詳細な時期の特定はできないが、提示された土師器片のなかには弥生時代後期～古墳時代前期の高坏や器台の脚部が含まれているようだ。須恵器の年代は想定不能である。

研究　藤田富士夫氏は、方墳で上部に広い平坦面を有し、土壙形式の埋葬施設をもつなどの特徴から、古墳出現期の比較的早い段階に築かれた二段築成の墳丘墓の可能性を想定した。北東－南西辺を長くする傾向が婦中町富崎千里古墳群の特色と類似することに注目し、古墳群と同様の性格をもつと推定した（藤田 1997）。

千坊山遺跡群の試掘調査報告書でも、地元住民への聞き取り調査を加味しながら、先行研究（岡崎 1969・藤田 1997）の認識を基本的には継承している。南西に位置する六冶古塚墳墓（四隅突出型墳丘墓）と規模が類似することから、二段築成の方形墳丘墓としつつも、四隅突出型墳丘墓の可能性も否定していない。基盤集落と推定する、谷を挟んだ千坊山遺跡と併行する時期と考えた場合、古墳の年代は月影式期に比定されることを指摘した（婦中町教育委員会 2002, p. 77）。

筆者は、出土地点の断面見取図の検討から、遺

砂質土からの出土品（抜粋）
（岡崎 1967）

物は後世の混入品と解釈した。千坊山遺跡に隣接する墳墓遺跡は、最寄りの添の山古墳の他に、石川県加賀地域の漆町遺跡編年（田嶋 1986）4 群期の六治古塚墳墓、同 6 群期の向野塚墳墓がある。墳墓の形状や集落の消長も考慮して、添の山古墳が同 5 群期の方形墳丘墓である可能性を想定できることを指摘した。千坊山遺跡を残した集団は、四隅突出→方→前方後方の順で墓を築き、隣接集団に先んじて新たな墓制を採用したと評価した（小黒 2007，p. 24）。前稿では遺物を後世の混入品と解釈した根拠を提示できなかったので、小稿ではその点も詳述したい。

3．段築ほかの検討

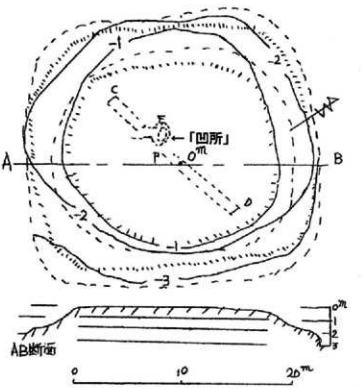
緊急調査以来、添の山古墳は二段築成との評価が定着した感がある。しかしながら、果たしてそう言い切ってよいものであろうか。

筆者は何度考えても疑問を拭い去ることができない。それは、筆者を含め、いわゆる出現期古墳[1]と評価する見解が多いなかで、段築の存在を認めて良いかということである。

確かに、測量図からはそのように見えなくもない。ただ、等高線（1 m間隔）の流れからは明確に段築を認めることができない。点線表記された傾斜変換線を AB 断面図と対比すると、墳丘北辺・南辺とも幅 2m 未満のテラス状の平坦面を読み取ることはできる。しかし、その平坦面も上端と下端の間で 50cm 程度の高低差がある。仮に、上端の傾斜変換線付近に流土が堆積していることを想定しても、テラスとしては斜度がきつい感がある。

平面図に示された 4 本の傾斜変換線のうち、下部の 2 本は比較的方形に近いものとなっているが、上部 2 本は円形に近い。テラス状の平坦面は上から 2 本目と 3 本目の傾斜変換線の間に相当するが、隅角部分は水平距離が他より長い。当該平坦面がテラスであれば、このような特徴は、段築をもつ方墳の一般的なあり方とは様相を異にする。隅角部分が幅広となるテラスは想定しにくいので、墳丘中位が崩落したり、削られたりするなかで、テラスに類する平坦面が形成されたと解釈するのが妥当ではなかろうか。

北陸では、段築をもつ古墳が限られる。富山県域では、調査で存在が確認されたのは全長 107.5mの大型



添の山古墳測量図（岡崎 1966 に加筆）

添の山古墳の立地（国土地理院撮影写真(1961 年)に加筆）
写真上が東、谷を挟んだ南側の台地は千坊山遺跡

前方後方墳である氷見市柳田布尾山古墳（古墳時代前期後半）と直径46mの大型円墳である立山町稚児塚古墳（古墳時代中期）のみである。出現期古墳で段築をもつ事例がないばかりか、婦負地域では添の山古墳以外に候補すらない。このようななか、添の山古墳に段築を認めることには違和感があり、前稿（小黒2007）で添の山古墳を評価した際、二段築成という認識は引用しなかった。

類例が乏しいということだけで段築の存在を否定することはできないが、何よりも北陸の古墳における段築のあり方（段築をもつ古墳の時期・墳丘規模）を重視したい。さらに、上述した測量図の検討結果も念頭に置くと、やはり添の山古墳に段築は存在せず、テラス状に見える平坦面は後世の改変等に起因している蓋然性が高いと判断すべきだろう。

添の山古墳は改変を被る過程で、墳頂平坦面の隅角部分が丸まっている。また、AB断面図上での墳端は垂直に近い状態箇所もあり、墳端も部分的に改変を被っていることは明らかである。地籍図から存在が推定された周溝は調査される間もなく湮滅したので、今となっては検証不能だが、本来の墳端は若干外側に広がり、それに伴って墳丘規模も、報告された外形の規模よりは若干大きかったと考えられる。六治古塚墳墓との墳丘規模の類似性のみから、添の山古墳に四隅突出型墳丘墓の可能性を残すことは避けるべきだろう。

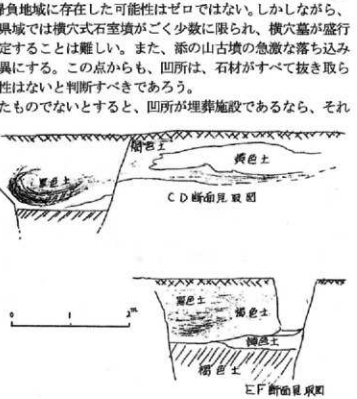
4.「凹所」の検討

先学は、いずれも凹所を埋葬施設と解釈している。筆者が疑問を抱くのは、①南西に接続する入口らしき急激な落ち込みの存在、②凹所の深さである。砂質土を追求した結果、落ち込みを含む凹所が現れているので、落ち込み部分は小判形の部分と一連のものということになる。つまり、凹所の平面形態は小判形ではなく、隅丸T字形なのである（測量図参照）。

平面形態の検討　管見ながら、竪穴系埋葬施設で墓壙が隅丸T字形のものはない。横穴系埋葬施設では、いわゆるT字形横穴式石室の石室掘り方を想定することも不可能ではない。横穴式石室の石室掘り方であれば、約1.7mという深さであっても大きな問題にはならないからである。T字形石室は、全国的に事例が限られるなか、北陸では能登の七尾市須曽蝦夷穴古墳（東石室：雄穴・羽咋市柴垣ところ塚古墳で確認されており、婦負地域に存在した可能性はゼロではない。しかしながら、石材が全く確認されていないことや富山県域では横穴式石室墳がごく少数に限られ、横穴墓が盛行したことを勘案すると、その可能性を想定することは難しい。また、添の山古墳の急激な落ち込みは、T字形石室の平坦な羨道とは様相を異にする。この点からも、凹所は、石材がすべて抜き取られた横穴式石室の石室掘り方である可能性はないと判断すべきであろう。

深さの検討　横穴系埋葬施設に関連したものでないとすると、凹所が埋葬施設であるなら、それは竪穴系埋葬施設でしかないことになる。仮に、落ち込み部分が小判形部分と一連のものではないとしても、小判形部分の深さが約1.7mという状況をどのように理解すればよいのかという疑問が残る。

断面見取図下部にある斜線部分の土がどのような性格をもつのか明記されていないが、報告された深さとほぼ合致するので、当該部も凹所内の埋土と理解するのが妥当だろう。小判形部分の平面規模だけをみれば、墓壙であっても良い。ただ、その規模に対して深さ約1.7mというのは深すぎる感があり、墓壙と認定するには違和感を覚える。



添の山古墳断面見取図（岡崎1966）

丹後の京都府峰山町赤坂今井墳丘墓（方形：39m×36m×4m）の第一埋葬は、弥生時代の日本列島で最大の墓壙（14m×10.5m）をもつが、それでも深さは 2m超に留まる。近隣の六治古塚墳墓では、添の山古墳と同様に表土直下で墓壙が確認されているが、その幅が 3mにも及ぶことや墳丘中央部に位置することは、添の山古墳と対照的であり、示唆的でもある。

小結　以上の検討から、筆者は凹所を墓壙と解釈しない方が良いと判断している。では、どのように解釈すべきなのか。それは、盗掘等による撹乱穴である。落ち込み部分は出入口として設けられたと考える。撹乱を被った時期は特定できないが、可能性の一つとしては凹所から出土した最新遺物である須恵器が使われた時期を想定できる。古墳時代中期～平安時代のいずれかの時期に撹乱を被った際、須恵器片が混入したと考えられよう。弥生時代後期～古墳時代前期のものらしき土器片を含む一群は、墳丘盛土に紛れていたもの、もしくは葬送儀礼で用いられたものが混入したことになる。他にも、須恵器片自体が後世の混入品であった可能性もあり、この場合は撹乱を被った時期がさらに下ることになる。

5．歴史的評価

筆者は、1に記したように、添の山古墳が漆町遺跡編年 5 群期の方形墳丘墓の可能性が高いと考えた(2)。本墳は、先行すると考えられる六治古塚墳墓と比べて、高さは 1mほど低い（六治古塚墳墓の主丘部の現地表面での墳端と比較）が、平面規模はわずかに大きい。方形基調であることや千坊山遺跡に隣接することから、これらが密接な関係にあったと考えることは許されるだろう。

羽根丘陵(3)では、漆町遺跡編年 4 群期で四隅突出型墳丘墓の造営が緒焉を迎える。千坊山遺跡を残した集団の首長墓と考えられる六治古塚墳墓がその一つである。富崎遺跡を残した集団の首長墓と考えられる富崎 1 号墓も、その可能性を想定して良い(4)。四隅突出型墳丘墓の終焉後に営まれた弥生時代の首長墓は添の山古墳（方形墳丘墓）と向野塚墳墓（前方後方形墳丘墓）のみであり、いずれも千坊山遺跡に隣接する。千坊山遺跡は他の集落と異なり、見晴らしの良い台地上に立地する（写真参照）こともあわせ、4 群期までは等質的だった羽根丘陵の 3 集団のなかで、5・6 群期は千坊山遺跡を残した集団が中核的な存在になったと考えられる（小黒 2007，pp. 23-24）。千坊山遺跡を残した集団は、連携の証だった四隅突出型墳丘墓の造営を取りやめ、六治古塚墳墓とほぼ同規模ながらも連携の解消を示すかのように、新たなカタチの墓（添の山古墳）を造営したのであろう。さらに、次世代になると、他地域の集団との関係をもとに得た情報から、再度新たな墓制を採用し、それが古墳時代の大型前方後方墳（動使塚古墳・王塚古墳）の成立へとつながっていく。添の山古墳の被葬者は、羽根丘陵で成立した地域勢力が再編される際、主導的立場にあり、千坊山遺跡を残した集団が地域勢力内部で覇権を握る端緒になった人物と考えられるのではなかろうか。

＜註＞

(1) 弥生時代後期後半～古墳時代前期前半に造営された墳丘盛土を持つ墓の総称として、いわゆる出現期古墳と呼称する（以下では、出現期古墳と表記する）。
(2) 岡崎氏は台地上に別の小型墳 1 基を認識しており（岡崎 1967・1969）、本遺跡は古墳群であることがわかる。
(3) 狭義の羽根丘陵・富崎丘陵・千坊山丘陵をあわせて、羽根丘陵とする。
(4) 周辺からの採集品（造成工事中の不時発見品）を時期認定根拠としているため、確定はできない。

＜引用・参考文献＞

大野英子　2007　『王塚・千坊山遺跡群　富山平野の弥生墳丘墓と古墳群』日本の遺跡 18　同成社
岡崎卯一　1966　「婦中町添の山古墳の調査　中間報告」『連絡紙 8』pp. 1-3　富山考古学会
岡崎卯一　1967　「町のあけぼの」『婦中町史』pp. 41-88　婦中町
岡崎卯一　1969　「考古学上よりみた古墳時代の富山」『富山高等学校教育研究会紀要 1969』
小黒智久　2007　「動使塚古墳と王塚古墳」『大境－富山考古学会機関誌－』第 27 号　pp. 11-28　富山考古学会
田嶋明人　1986　「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』pp. 108～186　石川県立埋蔵文化財センター
藤田富士夫　1997　「添の山古墳」『婦中町史』資料編　p. 38　婦中町
婦中町教育委員会　2002　『富山県婦中町　千坊山遺跡群試掘調査　報告書』

研究余話Ⅳ 富山城下町における江戸期ト占の一例—越前焼擂鉢の使用例から—

古川知明

（埋蔵文化財センター所長）

1　はじめに

2006年に実施された富山市一番町における富山城下町主要部の発掘調査で、江戸後期武家屋敷地内のゴミ穴から越前焼擂鉢が1点出土した。この擂鉢は、底部に穴があき、口縁内面に墨書がされている。擂鉢にみられるこの行為は、破損や廃棄時の破壊行為ではなく意図を持って行われた行為である。本稿はその行為の意味について解明することを目的とする。

2　出土地点の様相（第1図）

江戸時代後期において、富山城大手門南側を東西に横切って通過する北陸街道は、通りの両側に町屋が設けられた。その北側列の町屋通りと三ノ丸外堀との間には、帯状の武家地が設けられ、大目付、目付、奉行、組頭など要職にある武家屋敷が置かれた。出土した越前焼は、この武家屋敷内のうち、大手門から東へ2区画目の屋敷内から出土した。

この武家屋敷は、江戸後期～幕末の「御城内外御焼矢御絵図面」（富山県立図書館蔵）では「戸田」邸＋明地、安政元年（1854）年の写図「越中富山御城下絵図」（富山県立図書館蔵）では「戸田中務」邸＋明地となっており、高知組千石戸田氏の居宅であったことがわかる。

発掘調査では、ゴミ穴とみられる大型土坑群内から、陶磁器・大量の下駄・木札等とともに、「戸田式部」と書かれた木簡が出土し、絵図の記載を裏付けた。陶磁器類の年代からみて、ゴミ穴の構築年代は19世紀中ごろと推定されている（富山市教委ほか2006）。

越前焼擂鉢は、このゴミ穴を中心に、屋敷南部から出土した。

3　遺物（第2図）

(1)経過

検討対象とする越前焼擂鉢は、発掘調査品の整理過程において、12点の破片が確認され、接合して1個体の完形品に復元されたものである。発見されなかった欠損部分の形状から類推してカウントすると、推定22個の破片になって割れていたことになる。

発掘調査で出土する陶磁器は、硬質な陶器であっても往々にして割れており、完全な形で出土することは稀であり、本資料もそのような一般廃棄品としての陶磁器として分類整理された。ゴミ穴から出土した膨大な陶磁器類は、越中瀬戸や伊万里を主体とし、それらとそれ以外の陶磁器に大別され、さらに完形品や年代の指標となる資料を抽出して考古学的検討と報告書編成を行った。この過程で本資料は産地不明の擂鉢類として、いくつかの整理箱に分散して納められた。発掘調査報告書の刊行以後、富山城で使用された赤瓦や江戸後期における医王山東薬寺宝篋印塔下埋納礫石経容器に関連した調査（古川・伊集2008）の過程において、越前焼の搬入状況を把握するため、発掘調査品の中から越前焼を全抽出した。本資料はこの調査において該当資料が収集分類され、復元に至ったものである。復元後仔細に観察したところ、底面の穿孔と「占」の墨書が確認された。その詳細は次のとおりである。

(2)諸属性と年代的所見

本資料の容器としての器種は擂鉢であり、内面には卸し目を施す。口径35.4cm、高15.5cm、底径19.8cmである。口縁形態は、外側に浅い段をもち、端部は肥厚しない。体部は直立気味である。内面の卸し目は密で、12本単位である。見込みにも重ねて引く。底部は上げ底状である。

越前窯編年（木村2008）によれば、これらの諸特徴はⅧ－2期、実年代で1810年～1840年の製作年代が与えられる（木村孝一郎氏のご教示による）。

(3)底面の穿孔

底面のほぼ中央に小穴が穿たれている。穿孔の作業は、錐等を回転させて行ったものではなく、

先の尖った棒状の道具により、底外面側から斜めに突いて開けられたもので、底面内面の盛り上がりは無く、周囲の内面が欠損している。したがって焼成後の行為であることがわかる。

穿孔により直径 1.3cm 程の丸い穴ができており、これにより、器全体にヒビが入って割れ、少なくとも大小 22 個の破片になったとみられる。

穿孔した工具は、先端が尖った直径 1cm 以内の棒状工具と推定される。

(4)墨書

口縁内面に、漢字「占」の 1 文字が墨書されている。口縁と水平に横書きされており、文字の左側を口縁端側としている。口縁端からは 1cm 離れる。文字は丸筆による楷書体で、達筆である。

口の最後の横棒は省略されている。文字の大きさは縦 2.7cm 横 1.2cm を測る。

(5)使用状況

本資料の内面の卸し目を観察すると、カキ目両側の盛り上がりが残存しており、全く磨耗していない。このことは入手後未使用のまま穿孔し割られたことを意味している。

4　廃棄過程の復元

前項における遺物の観察から、入手から廃棄までの過程を復元してみたい。

まずこの越前陶は擂鉢という一般的生活容器であり、特別な形態を示すものではないことから、他の越前陶とともに、富山城下町において通常の生活容器流通購買ルートで購入された製品であると考えられる。発掘調査では同じゴミ穴から他に越前焼の大甕類が複数出土しており、他地点の遺構においても越前陶が散見される。このことは富山城下町において越前陶が一定量流通していたことを示している。ただし数量自体は少なく、肥前（伊万里・唐津）と越中瀬戸が主体である。発掘調査報告書における産地別数量分析から、越前陶は大甕の器種にほぼ特定して出現しており、その数量は全体の 1%に満たないとみられる。なお後日の越前陶抽出作業の結果、大甕は約 50 個体、擂鉢は本資料 1 点のみであることが判明した。これにより、富山城下町において流通した越前陶は貯蔵用大甕にほぼ限定されていたことを示すものであり、擂鉢はほとんど流通していなかったといえる。

したがって、本資料は日常容器ではあるが、通常流通していない商品であるため、特別な目的を持って注文品として入手した可能性が高い。使用品を転用したものではないことは、未使用状態であることがそれを物語るといえよう。

入手された擂鉢は、未使用のまま、穿孔が行われた。口縁内面の「占」という墨書は、穿孔以前に行われたのか、あるいは破片になった後に書かれたのか、文字部分とひび割れが切合っていないため明確に判断することはできない。文字が口縁を意識して書かれているという事実から推定するならば、割られる以前の状況において、鉢の底部を右にして立て、下となった部位に毛筆で文字を書いたということになろう。この場合、右手に筆を持って書くには、上になる部位の口縁に肘が当たり、極めて書き難いため左利きの人物が書いた可能性もある。また破片の状態で書いたほうが容易であり、いずれであったかは判断できない。

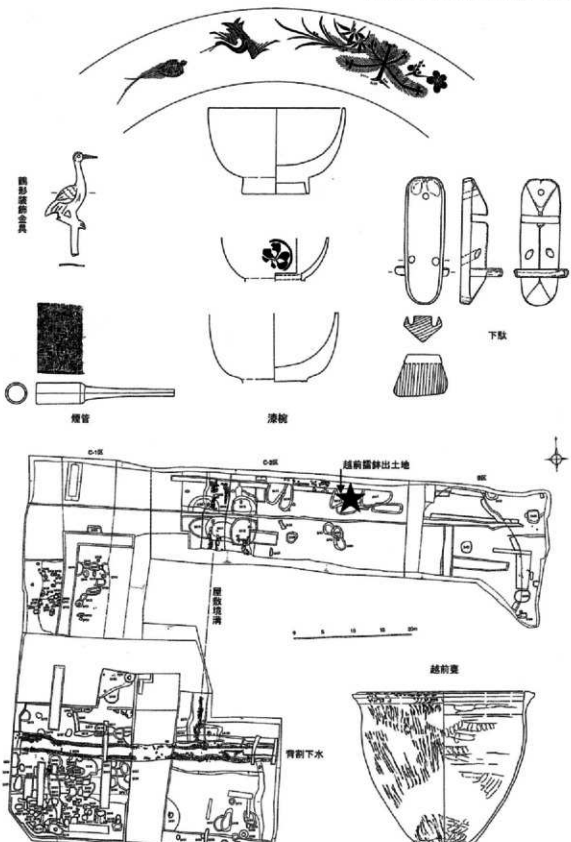
穿孔は、鉢を裏返して伏せ、底面外面側から行われた。ここで、仮に割られる前に「占」の墨書が行われていたとすると、この文字は内側になって見えない状態であったことになる。

穿孔により生じた円孔は、硬質で厚い陶器の底面外面に対し、棒状工具を振り上げ突き刺したか、あるいは工具先端を器面に付け、工具頭部をゲンノウなど重量物で叩いて衝撃を加える等して行われた結果生じたものであり、この小孔の発生は孔周辺のひび割れを招き、一瞬で器全体が割れたものと考えられる。したがって、これら一連の行為は、孔を開けるためではなく、器を割る目的で行われたと理解される。

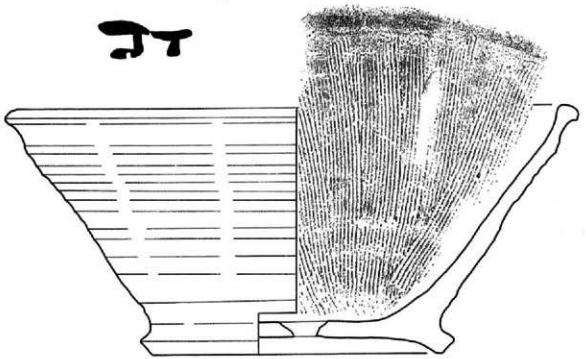
第1表　破片の出土遺構

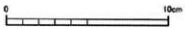
No.	遺構番号	部位	備考
1	SK16	底部	
2	SK09	底部	穿孔
3	SK09	底部	
4	SK16	口縁部	「占」の墨書
5	SK17	口縁部	
6	SK16	口縁部	
7	不明		
8	SK17	口縁部	
9	SK17		
10	SK09	口縁部	
11	SK17	口縁部	
12	不明	口縁部	

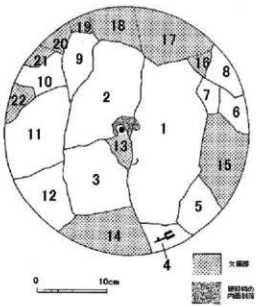
第１図　越前擂鉢出土遺構・遺物



第２図　越前擂鉢実測図



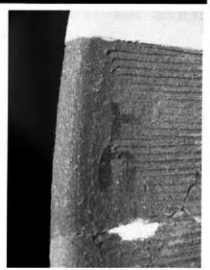




全体写真

底部の穿孔状況

「占」の墨書文字



少なくとも22点の破片になった擂鉢は、ゴミ穴群に廃棄された。ゴミ穴は遺構として3つに分かれるが、検出されなかった約半数の10点の破片は、廃棄の過程で紛失したか、未発掘の部分に遺存していたのか不明である。各破片の遺構毎の分を第1表に示す。

5　「占」の文字と目的

前項における分析から、この擂鉢は、入手後日常使用することなく、まず「占」の文字が書かれ、その後器を伏せ、棒状工具を用いて底に穴を開けて割った後、ゴミ穴に廃棄されたという過程を辿ることができる。

擂鉢が割られた目的は、「占」の文字が示すように、何事かを占うためであったとみられる。割る・ヒビを入れることにより占う作法は、「亀卜」と称する卜占法が代表的である。これは亀甲を焼き、ヒビの入り方によって占うもので、古くより神祇官あるいは神道における神主が天津神・国津神に対する祭式として行われた（伴1907、宮永1989）。陰陽師・修験者などの宗教者らが行ったその他多くの占いとは区別された。

江戸期におけるさまざまな占い＝雑占は、自然・器物・人間の現在の状態あるいは受動的に発生した行為を観察するだけで、焼くなどの人為的行為を及ぼさないものが主体であったとされる。この意味で、本例のような「割る」行為を伴う占いは、亀卜に通じるものがある。江戸期の記録等にみえる雑占には、陶器類を使う例は現在まで管見にない。

この占いが武家屋敷においてどのような目的で行われたのかは不明である。富山城下町に流通しない越前擂鉢という特殊な容器を入手し、新品のまま使用していることは、当初から占うことを目的に新品を入手したと考えられ、また稀少な越前擂鉢を使用することに意味があったとみられる。

富山城下町に存在した陰陽師や修験者が、何らかの吉凶占いあるいは呪詛を富山藩重臣戸田家の屋敷において行ったものと推定しておきたい。なお越前・加賀・能登においてこのような例は管見にないが、擂鉢底部に穴をあけ植木鉢に転用する例は認められており、本例においても「占」の墨書がない場合には植木鉢と理解された可能性がある（木村孝一郎氏のご教示による）。

本稿の作成にあたり、木村孝一郎氏、田中照久氏、堀沢祐一氏よりご教示を得た。記して御礼申し上げます。

＜参考文献＞

木村孝一郎　2008　「越前焼の編年的研究ノート」『吾々の考古学』

田中照久　2006　「近世の越前」『江戸時代のやきもの　生産と流通』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター

富山市教育委員会・総曲輪通り南地区市街地再開発組合　2006　『富山城跡発掘調査報告書』

伴信友　1907　「正卜考」『伴信友全集』第二　国書刊行会

古川知明・伊集守道　2008　「医王山東薬寺の文化四年銘宝篋印塔下の埋納礫石経の調査」『富山市考古資料館紀要』第27号

宮永雄太郎　1989　『禁獄祈祷太占　神道秘密集伝』八幡書店

富山市教育委員会 埋蔵文化財センター所報
富山市の遺跡物語　第11号
平成22(2010)年3月30日
編集・発行　富山市教育委員会 埋蔵文化財センター
〒930-0091　富山市愛宕町1丁目2-24
TEL 076-442-4246　FAX 076-442-5810
URL:http://homepage2nifty.com/kitadai/（北代縄文広場と兼用）
E-mail:maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp
印刷　株式会社サカイ印刷